

目 次

Syllabus

開講科目一覧	3
アクティブラーニング要素表	7

〔令和3年度入学生〕

【共通科目】

教養基礎演習（教養基礎演習Ⅰ）	9
情報技術（情報技術Ⅰ）	12
ビジネスエクセル（情報技術Ⅱ）	15
ビジネスワード（情報技術Ⅲ）	18
ビジネスパワーポイント（情報技術Ⅳ）	21
心理学	24
異文化と世界	30
ボランティア論	36
キャリア形成Ⅰ	39
キャリア形成Ⅱ	42
ビジネスマナー（秘書技能）	45
運動と健康	48
標準英語スキルズ（英語コミュニケーションⅠ）	51
英会話	57

【家政科コア科目】

家政学概論	60
食生活論	63
衣・住生活論	66
家族関係学	75

【生活デザイン専攻科目】

〔基礎科目〕

生活デザイン概論	84
調理学	87
社会福祉概論	90
アパレル素材・管理学	93
グラフィックソフト実習	96
マーケティング概論	99

〔プロダクトデザイン〕

テキスタイルデザイン実習Ⅰ （ファッション造形実習Ⅰ）	111
アロマセラピー概論	120
アロマセラピー演習	123
工芸実習（工芸実習Ⅰ）	126
店舗空間デザイン演習	129

調理学実習	132
食べ・ストラテデザイン実習	135
製菓製パン実習Ⅰ	138
製菓製パン実習Ⅱ	141
〔コミュニケーションデザイン〕	
ファッション販売演習	153
フードデザイン・マネジメント論	159
フードプランニング論	162
レストランサービス論	168
医療事務サービス論（医療事務）	180
医療事務サービス演習	183
サービス英語コミュニケーション	186

【食物栄養専攻科目】

解剖生理学Ⅰ	195
解剖生理学Ⅱ	198
生化学	204
食品学総論（食品学Ⅰ）	210
食品学各論（食品学Ⅱ）	213
食品材料学実験	219
食品衛生学	222
食品衛生学実験	225
基礎栄養学（栄養学Ⅰ）	228
応用栄養学Ⅰ（栄養学Ⅱ）	231
応用栄養学Ⅱ（栄養学Ⅱ）	234
臨床栄養学（臨床栄養学Ⅰ）	243
調理学	267
調理学実験	270
調理学実習Ⅰ	273
給食計画・実務論Ⅰ（献立作成論）	279
給食計画・実務論Ⅱ	282
給食計画・実務論実習Ⅰ	285
給食計画・実務論実習Ⅱ（給食管理実習Ⅰ）	288
栄養士数学演習a	294
栄養士数学演習b	297
基礎調理学実習	300
フードコーディネート論	315
フードデザイン・マネジメント論	159
フードプランニング論	162
栄養士実力養成演習Ⅰ	321

【支援科目】

生活数理演習	327
英語基礎演習 a	330
英語基礎演習 b	333

【支援講座】

医療事務支援講座Ⅰ	336
医療事務支援講座Ⅱ	336
情報技術活用講座	337
ファッション資格対策講座	337

〔令和2年度入学生〕**【共通科目】**

ビジネスエクセル（情報技術Ⅱ）	15
ビジネスワード（情報技術Ⅲ）	18
ビジネスパワーポイント（情報技術Ⅳ）	21
現代日本の社会問題	27
日本国憲法と法律（日本国憲法）	33
ビジネスマナー（秘書技能）	45
応用英語スキルズ（英語コミュニケーションⅡ）	54
英会話	57

【家政科コア科目】

妊娠・出産・保育の科学	69
家庭経営学	72
介護概論	78
消費生活と環境	81

【生活デザイン専攻科目】**〔基礎科目〕**

食品衛生学	102
食文化論	105
カラーコーディネート演習	108

〔プロダクトデザイン〕

テキスタイルデザイン実習Ⅱ（工芸実習Ⅱ）	114
ファッション造形実習（ファッション造形実習Ⅱ）	117
介護食実習	144
デジタルデザイン演習	147
商品開発・企画演習	150

〔コミュニケーションデザイン〕

インテリアコーディネート演習	156
フードコーディネート実習	165

レストランサービス実習	171
福祉住環境コーディネーター概論	174
ユニバーサルデザイン概論	177

【食物栄養専攻科目】

公衆衛生学	189
社会福祉概論	192
解剖生理学実験	201
運動生理学	207
食品科学実験（食品学実験Ⅰ）	216
応用栄養学実習Ⅰ（栄養学実習）	237
応用栄養学実習Ⅱ	240
臨床栄養学実習（臨床栄養学実習Ⅰ）	246
臨床栄養学実習Ⅱ	249
栄養指導論Ⅰ	252
栄養指導論Ⅱ	255
栄養指導論実習Ⅰ	258
栄養指導論実習Ⅱ	261
公衆栄養学	264
調理学実習Ⅱ	276
校外実習（給食管理実習Ⅱ）	291
食品加工学実習（食品学実験Ⅱ）	303
食品の官能評価・鑑別論	306
フードスペシャリスト論	309
フードマーケティング論	312
フードコーディネーター実習	165
食文化論	105
栄養統計学演習	318
栄養士実力養成演習Ⅱ	334

【支援講座】

医療事務支援講座Ⅰ	336
医療事務支援講座Ⅱ	336
情報技術活用講座	337
ファッション資格対策講座	337

令和3年度 開講科目一覧

生活デザイン専攻							
授業科目			読み替え科目	担 当 者	開講 期間	Page	
対象年次	1年次	2年次	()内対象入学年度		前・後		
共通科目	教養基礎演習		教養基礎演習Ⅰ(2018)	中野都、渡辺淳、江木伸子、 パッケ伊東、平尾和子	前	9	
	情報技術		情報技術Ⅰ(2018)	准 教 授前 田 康 智	前	12	
	ビジネスエクセル	ビジネスエクセル	情報技術Ⅱ(2018)	准 教 授前 田 康 智	後	15	
	ビジネスワード	ビジネスワード	情報技術Ⅲ(2018)	准 教 授前 田 康 智	後	18	
	ビジネスパワーポイント	ビジネスパワーポイント	情報技術Ⅳ(2018)	准 教 授前 田 康 智	後	21	
	心理学			非常勤講師原 島 雅 之 非常勤講師佐 久 間 直 人	前	24	
		現代日本の社会問題		教 授渡 辺 淳	前	27	
	異文化と世界			教 授渡 辺 淳	後	30	
		日本国憲法と法律	日本国憲法(2018)	非常勤講師友 寄 隆 信	前	33	
	ボランティア論			教 授中 野 都	前	36	
	キャリア形成Ⅰ			准 教 授小田島 祐美子	前	39	
	キャリア形成Ⅱ			准 教 授前 田 康 智	後	42	
	ビジネスマナー	ビジネスマナー	秘書技能(2018)	准 教 授三 星 沙 織	前	45	
	運動と健康			非常勤講師佐 藤 久 乃	後	48	
	標準英語スキルズ		英語コミュニケーションⅠ(2019)	教 授渡 辺 淳 非常勤講師リチャード・オステン	後	51	
		応用英語スキルズ	英語コミュニケーションⅡ(2019)	教 授渡 辺 淳	前	54	
	英会話	英会話		非常勤講師リチャード・オステン	前	57	
家政科 コア科目	家政学概論			非常勤講師木 林 祥 子	前	60	
	食生活論			准 教 授三 星 沙 織	前	63	
	衣・住生活論			准 教 授畑 久 美 子 非常勤講師山村 美保里	前	66	
		妊娠・出産・保育の科学		客 員 教 授岩 倉 弘 毅 非常勤講師川 上 美 子	前	69	
		家庭経営学		非常勤講師木 林 祥 子	後	72	
	家族関係学			教 授渡 辺 淳	後	75	
		介護概論		教 授中 野 都	前	78	
		消費生活と環境		教 授渡 辺 淳	後	81	
専攻科目	基礎科目	生活デザイン概論		准 教 授畑 久 美 子	前	84	
		調理学		教 授平 尾 和 子	前	87	
		社会福祉概論(生デ)		教 授中 野 都	前	90	
		アパレル素材・管理学		准 教 授畑 久 美 子	後	93	
		グラフィックソフト実習		教 授パ ッ ケ 伊 東	後	96	
		マーケティング概論		教 授パ ッ ケ 伊 東	後	99	
			食品衛生学	教 授江 木 伸 子	前	102	
			食文化論	講 師米 山 陽 子	前	105	
			カラーコーディネート演習	准 教 授畑 久 美 子	前	108	
	フ・ロ・タ・ク・ト・テ・サ・イン	テキスタイルデザイン実習Ⅰ		ファッション造形実習Ⅰ(2019)	非常勤講師秋 山 敦 子 非常勤講師木 林 祥 子	前	111
			テキスタイルデザイン実習Ⅱ	工芸実習Ⅱ(2019)	准 教 授畑 久 美 子	前	114
			ファッション造形実習	ファッション造形実習Ⅱ	准 教 授畑 久 美 子	前	117
		アロマテラピー概論		非常勤講師久保田 裕子	前	120	
		アロマテラピー演習		非常勤講師久保田 裕子	後	123	
		工芸実習		工芸実習Ⅰ(2019)	非常勤講師本 郷 芳 哉	後	126
		店舗空間デザイン演習		教 授パ ッ ケ 伊 東	後	129	
		調理学実習		講 師米 山 陽 子	後	132	
		食べ・ストラテデザイン実習		教 授パ ッ ケ 伊 東	前	135	
		製菓製パン実習Ⅰ		非常勤講師森 崎 繭 香	前	138	
		製菓製パン実習Ⅱ		講 師米 山 陽 子	後	141	
			介護食実習	准 教 授小田島 祐美子	前	144	
			デジタルデザイン演習	教 授パ ッ ケ 伊 東	前	147	
			商品開発・企画演習	平尾、伊東、畑、米山、秋山、 木林、本郷、森崎	後	150	
	コミュニティ・サイエーション	ファッション販売演習		准 教 授畑 久 美 子	後	153	
			インテリアコーディネート演習	非常勤講師山村 美保里	後	156	
		フードデザイン・マネジメント論		非常勤講師米 山 陽 子	後	159	
		フードプランニング論		非常勤講師森 崎 繭 香	後	162	
			フードコーディネート実習	非常勤講師佐 野 雅	前	165	
		レストランサービス論		非常勤講師真 島 久 美	後	168	
			レストランサービス実習	非常勤講師真 島 久 美	前	171	

生活デザイン専攻							
授業科目			読み替え科目	担 当 者	開講 期間	Page	
対象年次	1年次	2年次	()内対象入学年度		前・後		
専攻科目	コミュニケーションデザイン		福祉住環境コーディネート概論		非常勤講師山村 美保里	前	174
			ユニバーサルデザイン概論		准 教 授畑 久 美 子	後	177
		医療事務サービス論		医療事務(2018)	非常勤講師内 藤 麻 紀	前	180
		医療事務サービス演習			教 授中 野 都	前	183
		サービス英語コミュニケーション			非常勤講師リチャード・オステン 非常勤講師江 口 眞 由 美	後	186
支援科目		生活数理演習		生活数理演習 I (2018)	准 教 授前 田 康 智	前	327
		英語基礎演習a			教 授渡 辺 淳	前	330
		英語基礎演習b			准 教 授前 田 康 智	前	333
支援講座		医療事務支援講座Ⅰ	医療事務支援講座Ⅰ		准 教 授前 田 康 智	前	336
		医療事務支援講座Ⅱ	医療事務支援講座Ⅱ		教 授中 野 都	後	336
		情報技術活用講座	情報技術活用講座		准 教 授前 田 康 智	前後	337
		ファッション資格対策講座	ファッション資格対策講座		准 教 授畑 久 美 子	前後	337

令和3年度 開講科目一覧

食物栄養専攻						
授業科目			読み替え科目	担 当 者	開講 期間	Page
対象年次	1年次	2年次	()内対象入学年度		前・後	
共通科目	教養基礎演習		教養基礎演習Ⅰ(2018)	中野都、渡辺淳、江木伸子、 パッケ伊東、平尾和子	前	9
	情報技術		情報技術Ⅰ(2018)	准 教 授前 田 康 智	前	12
	ビジネスエクセル	ビジネスエクセル	情報技術Ⅱ(2018)	准 教 授前 田 康 智	後	15
	ビジネスワード	ビジネスワード	情報技術Ⅲ(2018)	准 教 授前 田 康 智	後	18
	ビジネスパワーポイント	ビジネスパワーポイント	情報技術Ⅳ(2018)	准 教 授前 田 康 智	後	21
	心理学			非常勤講師原 島 雅 之 非常勤講師佐 久 間 直 人	前	24
		現代日本の社会問題		教 授渡 辺 淳	前	27
	異文化と世界			教 授渡 辺 淳	後	30
		日本国憲法と法律	日本国憲法(2018)	非常勤講師友 寄 隆 信	前	33
	ボランティア論			教 授中 野 都	前	36
	キャリア形成Ⅰ			准 教 授小田島 祐美子	前	39
	キャリア形成Ⅱ			准 教 授前 田 康 智	後	42
	ビジネスマナー	ビジネスマナー	秘書技能(2018)	准 教 授三 星 沙 織	前	45
	運動と健康			非常勤講師佐 藤 久 乃	後	48
	標準英語スキルズ		英語コミュニケーションⅠ(2019)	教 授渡 辺 淳 非常勤講師リチャード・オステン	後	51
		応用英語スキルズ	英語コミュニケーションⅡ(2019)	教 授渡 辺 淳	前	54
	英会話	英会話		非常勤講師リチャード・オステン	前	57
家政科コア科目	家政学概論			非常勤講師木 林 祥 子	前	60
	衣・住生活論			准 教 授畑 久 美 子 非常勤講師山 村 美 保 里	前	66
		妊娠・出産・保育の科学		客 員 教 授岩 倉 弘 毅 非常勤講師川 上 美 子	前	69
		家庭経営学		非常勤講師木 林 祥 子	後	72
	家族関係学			教 授渡 辺 淳	後	75
		介護概論		教 授中 野 都	前	78
		消費生活と環境		教 授渡 辺 淳	後	81
専攻科目		公衆衛生学		非常勤講師菅 野 公 司	前	189
		社会福祉概論(食栄)		教 授中 野 都	後	192
	解剖生理学Ⅰ			非常勤講師古 谷 彰 子	前	195
	解剖生理学Ⅱ			非常勤講師古 谷 彰 子	後	198
		解剖生理学実験		非常勤講師古 谷 彰 子	後	201
	生化学			教 授江 木 伸 子	後	204
		運動生理学		非常勤講師菅 野 公 司	後	207
	食品学総論		食品学Ⅰ(2019)	教 授江 木 伸 子	前	210
	食品学各論		食品学Ⅱ(2019)	准 教 授三 星 沙 織	後	213
		食品科学実験	食品学実験Ⅰ(2019)	教 授江 木 伸 子	前	216
	食品材料学実験			教 授江 木 伸 子	前	219
	食品衛生学			准 教 授三 星 沙 織	前	222
	食品衛生学実験			准 教 授三 星 沙 織	後	225
	基礎栄養学		栄養学Ⅰ(2019)	非常勤講師古 谷 彰 子	前	228
	応用栄養学Ⅰ		栄養学Ⅱ(2019)	非常勤講師古 谷 彰 子	前	231
	応用栄養学Ⅱ		栄養学Ⅱ(2019)	准 教 授小田島 祐美子	後	234
		応用栄養学実習Ⅰ	応用栄養学実習(2019)	准 教 授小田島 祐美子	前	237
		応用栄養学実習Ⅱ		准 教 授小田島 祐美子	後	240
	臨床栄養学		臨床栄養学Ⅰ(2019)	准 教 授小田島 祐美子	後	243
		臨床栄養学実習	臨床栄養学実習Ⅰ(2019)	准 教 授小田島 祐美子	前	246
		臨床栄養学実習Ⅱ		准 教 授小田島 祐美子	後	249
		栄養指導論Ⅰ		准 教 授神 田 聖 子	前	252
		栄養指導論Ⅱ		准 教 授神 田 聖 子	後	255
		栄養指導論実習Ⅰ		准 教 授神 田 聖 子	前	258
		栄養指導論実習Ⅱ		准 教 授神 田 聖 子	後	261
		公衆栄養学		准 教 授小田島 祐美子	前	264
	調理学			教 授平 尾 和 子	前	267
	調理学実験			講 師米 山 陽 子	前	270
	調理学実習Ⅰ			准 教 授三 星 沙 織	後	273
		調理学実習Ⅱ		教 授平 尾 和 子	後	276

食物栄養専攻						
授業科目			読み替え科目	担 当 者	開講 期間	Page
対象年次	1年次	2年次	()内対象入学年度		前・後	
専攻科目	給食計画・実務論Ⅰ		献立作成論(2019)	准 教 授 神 田 聖 子	前	279
	給食計画・実務論Ⅱ			教 授 中 野 都	後	282
	給食計画・実務論実習Ⅰ			准 教 授 神 田 聖 子	前	285
	給食計画・実務論実習Ⅱ		給食管理実習Ⅰ(2019)	教 授 中 野 都	後	288
		校外実習	給食管理実習Ⅱ(2019)	教 授 中 野 都	後	291
	栄養士数学演習a			准 教 授 前 田 康 智	前	294
	栄養士数学演習b			教 授 渡 辺 淳	前	297
	基礎調理学実習			准 教 授 三 星 沙 織	前	300
		食品加工学実習	食品学実験Ⅱ(2019)	准 教 授 三 星 沙 織	後	303
		食品の官能評価・鑑別論		講 師 米 山 陽 子	前	306
		フードスペシャリスト論		教 授 江 木 伸 子	後	309
		フードマーケティング論		教 授 江 木 伸 子	前	312
	フードコーディネート論			講 師 米 山 陽 子	前	315
		フードコーディネート実習		非常勤講師 佐 野 雅	前	165
	フードデザイン・フードマネジメント論			講 師 米 山 陽 子	後	159
	フードプランニング論			非常勤講師 森 崎 繭 香	後	162
		食文化論		講 師 米 山 陽 子	前	105
		栄養統計学演習		准 教 授 前 田 康 智	前	318
	栄養士実力養成演習Ⅰ			教 授 江 木 伸 子	後	321
		栄養士実力養成演習Ⅱ		教 授 江 木 伸 子	後	334
科 支 目 援	英語基礎演習a			教 授 渡 辺 淳	前	330
	英語基礎演習b			准 教 授 前 田 康 智	前	333
支援講座	情報技術活用講座	情報技術活用講座		准 教 授 前 田 康 智	前後	337

アクティブ・ラーニング要素表

要素番号	手法	概要	アクティブ・ラーニング科目を構成する際の留意事項	
【１】	Problem Based Learning, Project Based Learning	P r o b l e m B a s e d L e a r n i n gとは、問題解決を主目的として、学習者主体で実践されるグループ学習である。P l o j e c t B a s e d L e a r n i n gとは、具体的な学修課題をたてて、一人ないしチームでプロジェクトを遂行しながら行う学習である。いずれも学生が自主的に学修することが求められる。	「ペア・グループワーク」や「プレゼンテーション」等と組み合わせて実施することが想定される。学生が主体となり課題を解決する方法を考え、計画を立てて学修を進めるという、初年次の学生にとっては比較的高度な学修法ともいえるので、課題レベル設定や適切な学修支援（チューターによる補助など）に配慮が必要である。ポートフォリオの利用も考えられる。	
【２】	クリッカーを用いたレスポンス	教員の質問に対し、学生がクリッカー（情報送信機）のボタンを押して答える形態である。レスポンスシステムとも呼ばれる。その結果が瞬時に集計され、スクリーンに表示される。学生は自らの意見の正誤や他の学生の意見を即時に知ることができる。意思表示を手軽に行えるので、授業への参加意欲が促される。	教員は学生の全体的な反応を確認しながら授業を進めることができる。しかし、クリッカーはアクティブ・ラーニング化を支援するシステムなので、他の手法と組み合わせるなど、主体的な学修を促進するような授業設計をする工夫が必要となる。	
【３】	調査研究	教員が提示したテーマや課題に対して、図書館等で参考図書、新聞・雑誌、統計資料を調べたり、ＤＶＤ映像やインターネットのメディアを活用して情報収集を行い、結果をまとめ、発表する学習方法である。	単にレポートを課すだけでは、アクティブ・ラーニングとはいえない。学生によるプレゼンテーションへつなげたり、フィードバックを行ったりして、調査情報の質を高めたり、調査の成果を用いながら、学生がさらに学修を深めていく工夫が重要となる。	
【４】	フィールド・ワーク	教員が提示したテーマや課題に対して、実施調査・研究等を行う学習方法である。	学修課題をフィールド・ワークに取り組み、学習者が実施での活動を行い、学修課題についての理解を深めることが必要である。	
【５】	実験	理論や仮説を様々な条件の下で検証する学習方法である。学生が知識を活かして実際に行動することによって理解を深めると同時に、結果を整理してまとめる力を身につけることが期待される。	教養教育で準備できる範囲の部屋や器具類で実施計画を立てること。実験を通して主題に対する探求を深めていくことが大切である。実験自体は主体的な活動ではあるが、実験の事前教育、実験過程での学習者の主体的・能動的な取り組みへの指導が必要である。	特に自然科学系分野では、設定された課題について、学生が（協力して）自らの活動を通じて解決したり、講義で学んだ原理や現象を、学生自身が追体験して確認する要素が含まれていることが重要である。 したがって、単に計測器の取扱い法等について学ぶような実験・実習はアクティブ・ラーニングとはならない。
【６】	実習	講義などで学んだ技術や方法等を実際の場面で展開することで、理論と実践の関係を深める学習の方法である。学生が実践的な力量をつけるとともに、実践を理論的に省察すること、そのことでさらに実践力や課題への取り組みの姿勢の向上が期待される。	実習・実技は必ずしも、単純にアクティブ・ラーニングとはならない。講義等での学修内容・知識と、実習・実技で身につける知識・技能とが有機的に結びつく必要がある。	
【７】	実技	技術や演技などが直接的な学習であるような授業方法。		
【８】	ロール・プレイング・シミュレーション	現実にかかる場面を想定して、参加者がそれぞれに与えられた役割を演じ（ロールプレイ）、疑似体験（シミュレート）する学習法である。技術・技能の修得や、現実的なケースにおける多面的な見方、態度・姿勢の涵養、他人の立場への理解などを促進する際に効果的である。	ロールプレイやシミュレーションを取り入れるためにはその事柄に対する知識・理解が必要。教員による適切な場面の設定と、役割分担を話し合い等を通して決めるなど、学生相互の関わりも重要になる。	

アクティブ・ラーニング要素表

【 9 】	ペア・グループワーク	教員から与えられた課題に対して、ペアもしくは小グループ（3人から6人程度が一般的）で相互協力を行いながら学修を進めていく協同学習のことである。グループ構成員が相互協力して共同作業をする。	作業手順の明確化、課題解決への探求方法や手がかりをどのように準備するかが重要になる。円滑なペアワークやグループワークを行うために、協同学習の考えを取り入れながら授業の準備や設計を行うことが望まれる。学習者が明確な役割を持って学修を進められるような課題の設定をし、また互恵的な協力関係を生み出せるよう人間関係に配慮することが必要である。グループワークは必ず授業時間内に終了することが必要である。
【 1 0 】	ディベート	課題討議法の一つで、ある公的なテーマについて肯定側と否定側の立場から、立論・反論といった論戦を通じて、第三者を客観的な証拠に基づいて説得するコミュニケーション形態である。ディベートを通して、自分の意見や問題意識を持ったり、論理的な考え方ができるようになるといった効果が期待される。	多数の受講者を一括した討議は一般的とは言えない。討議の成果が可能な授業設計が必要である。小グループで交代しながら討議を繰り返す場合には、それ以外の学生が果たす役割を明確にしておく必要がある。成績評価方法についても明確にし、予め受講者に示しておくことも重要である。また、テーマの難易度が高すぎる場合にはうまく機能しないことのあるため、教員は進行をよく観察し、時には介入することも必要である。学生同士で議論させる機会を作るだけでなく、議論を行うための知識や経験を持たせた上でお互いの考えを深めたり、議論の結果としてテーマに関する学修を深める意欲につながったりするように、授業を設計する必要がある。
【 1 1 】	ディスカッション	グループでの討議・話し合い。学生同士の相互の意見交換を通して、各人の持つ知識・経験などが共有され、討議課題への理解が深まることが期待される。自由討議法は、内容も役割も自由に議論することになる。	
【 1 2 】	プレゼンテーション	指示されたテーマや課題について、グループもしくは単独で調査・学習を行い、聴衆の前で発表す形態。発表形式は、パワーポイントなどの情報機器を活用したものや、ポスターセッションなど様々である。発表後は他の受講者や教員からの質疑に応答する。	プレゼンテーションの回数と成績評価方法を予め明確にしておく必要がある。プレゼンテーションをする学生と聞く学生の学修課題の明確化、評価基準の明確化が必要である。プレゼンテーションを聞くことが、学び合いにつながるように、質疑応答の時間を十分に確保すること、プレゼンテーション後に各学生が何を学んだかをふり返る機会も設けることなども考慮することが重要である。
【 1 3 】	輪読学習	書物を数人が順番に読んで解釈し、問題点について論じ合う学習方法である。一般的には、書物をいくつかの部分に分け、それぞれ担当者に割り当て、担当者はその部分の論点をまとめ、授業で発表する。それを受けて、分からなかった部分や疑問点などについて、各自の見解を論じ合う。	単純に学生に書物の部分を割り振り、発表させるのではなく、教員側では論じ合う問題点や解釈を適宜チャネリングすることも必要である。輪読する書物の選択は十分な考慮を必要とする。受講者数を考えた授業設計は必要であり、例えば50名の受講者なら、発表者が5名で、10回で全員が担当する場合には、各回で残りの45名が何をするのかを、全員の学習機会の保証という視点で考えておく必要がある。またそれに伴った成績評価方法も必要である。
【 1 4 】	双方向型問題演習	与えられた課題やテーマについて学生が答案やレポート・小論文を作成し、それを教員が添削・採点してフィードバックしたものを、再度学生が確認し理解を深める学習方法である。教員とコミュニケーションをとることにより、学修意欲を引き出すねらいもある。学生は自らの理解度を確認し、新たな気づきや課題を見いだすことが期待される。	学生の能動的な学修をひきだすところにねらいがある。出題した課題の解答例や解説を示すとともに、双方向演習としてのフィードバックが不可欠となる。
【 1 5 】	双方向型執筆演習		
【 1 6 】	振り返り	授業の途中や終了時に、理解したことや分からなかったこと等について確認を行い、理解の促進を図る学習方法である。確認の方法としては、振り返りシート等の記入、確認テスト（小テスト）、ペア・グループワークによる意見の共有などがある。	学生は、講義を聞いただけ、体験しただけでは、次の機会に学修内容を応用できない可能性があり、学修内容や自らの言動を振り返る機会を設けることが有効であるという考え方に基づく。振り返りを促すための支援方法が重要であり、単に振り返るだけでなく、その後の主体的（能動的）学修へつなげることが重要である。
【 1 7 】	体験型学習	教員による講義等を中心とする授業形態ではなく、学外機関・企業等における体験学習を中心とする、インターンシップ、サービス・ラーニング、ボランティア活動などが挙げられる。	学外における体験活動等を完結するだけではアクティブ・ラーニングとはならない。事前準備・指導、体験活動・事後指導・展開等を通して主体的な学修に要する総学修時間の確保が不可欠である。活動期間中における受け入れ先の評価と併せて、事前事後の取組状況を加味して評価を行うことが重要である。また、成績評価法の明確化が必要である。

科 目 名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
教養基礎演習	卒業必修	共通	1年 前学期	演習	1	中野・渡辺・江木・ 伊東・平尾	複数・ クラス分け
科目区分		履修条件					AL
共通科目		特になし					6・7, 8, 9, 11, 12
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
本学の学生として身につけてほしい基礎的な知識・技能を学び、その中から豊かな生活をするために必要な事項を自ら選択することができるようになるために設定した科目である。はじめに本学園の礎となる、建学の精神・校訓・歴史・伝統について学ぶ。そのうえで、社会で活動するために必要となる基礎的な知識及び能力・豊かな教養を身につける。さらにこの学習成果を獲得するために欠かせない、円滑なコミュニケーション方法やマナー、社会常識について理解し、活用できるようにする。また、短期大学で必要とされる学修方法を習得するために、レポートや文章の書き方、プレゼンテーション技術および聴講姿勢を身につけ、まとめとして短大での学びの成果を報告する方法を習得する。							
到達（成績評価A）目標							
・コミュニケーションやマナーの必要性を説明することができ、短大生として円滑にコミュニケーションすることができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】 ・社会生活に必要なマナー・社会常識を理解し、場に応じて使うことができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性・協働性】 ・プレゼンテーションのために構成を考えて原稿を作成し、聴衆の前で模範的なスピーチをすることができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】 ・話者に対して聴く姿勢を示すことができ、質問することができるようになる。【DP3：主体性・多様性・協働性】 ・レポートの書き方や文献の検索方法を理解したうえで、必要事項を満たし、自分の考えを含めた内容のレポートが提出できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】 ・主体的にプロジェクト学習を進め、相手に対し状況に応じた内容の文章を書くことができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性・協働性】							
単位取得（成績評価C）目標							
・コミュニケーションやマナーの必要性を理解し、短大生としてコミュニケーションすることができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】 ・社会生活に必要なマナー・社会常識を理解し、使うことができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性・協働性】 ・プレゼンテーションのための原稿を作成し、聴衆の前でスピーチすることができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】 ・話者に対して聴く姿勢を示すことができるようになる。【DP3：主体性・多様性・協働性】 ・レポートの書き方を理解したうえで、必要事項を満たした内容のレポートが提出できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力】 ・主体的にプロジェクト学習に取り組み、基本に則った内容の文章を書くことができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性・協働性】							
教科書							
なし							
参考書・資料							
各授業の講師が必要に応じて資料を配布							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
スピーチ原稿などは添削等ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
・授業の内容により、担当教員が指定したクラス分けを行って実施する。 ・スケジュール、講師はクラスによって異なることがある。 ・講師の都合等により、授業の順序が変更になることもある。 ・授業中のスマートフォンの使用および私語は禁止する。 ・欠席した場合は、出校した際に必ずその回の担当講師に連絡を取る。課題提出の場合が多い。							
成績評価方法			成績評価基準				
授業内課題等及びプレゼンテーション(65%)、 文章表現力(30%)、 受講態度(5%) の総合評価。			S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格				

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認してください。

科 目 名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
教養基礎演習	卒業必修	共通	1年 前学期	演習	1	中野・渡辺・江木・ 伊東・平尾	複数・ クラス分 け
科目区分		履修条件					AL
共通科目		特になし					6・7, 8, 9, 11, 12

授業のスケジュール

回	項 目	内 容	担当者
1	建学の精神、オリエンテーション	愛国学園の建学の精神・校訓・学園の歴史を学ぶ、本科目の意義と進め方、短大生活におけるマナー、ボランティア活動について。	平尾 中野
	事前学習 15分	シラバスを読んでくる。建学の精神と校訓を音読してくる(キャンパスガイド参照)。	
	事後学習 10分	授業の内容を振り返り、短期大学で学ぶということを再度確認する。	
2	コミュニケーションスキル	円滑なコミュニケーションの方法や必要性を学ぶ(外部講師)。	平尾 中野
	事前学習 10分	円滑なコミュニケーションの必要性を考えてくる。	
	事後学習 30分	授業の内容を振り返り、日常的に継続して実践する。	
3	自己紹介 (プレゼンテーション1)	簡易のスピーチ原稿を作成し、自己紹介のスピーチを行う。他の人のスピーチを聴く。	クラス分け 複数
	事前学習 30分	1分間で自分自身を紹介するための題材について考えてくる。	
	事後学習 20分	自分のスピーチについて振り返り、反省をまとめて提出する。	
4	短期大学に必要な学修方法(初年次教育1)	資料等のファイリング、学生生活における時間管理、成績評価と試験について。	江木
	事前学習 10分	キャンパスガイドの試験についてページを読んでくる。	
	事後学習 30分	自分の生活を振り返り、時間管理について考える。	
5	短期大学に必要な学修方法(初年次教育2)	レポートの書き方、文献の探し方、メールでの資料添付方法	渡辺 江木
	事前学習 20分	事前に配布するプリントを読んでくる。資料を参照し、フリーメールアドレスを取得しておく。	
	事後学習 30分	レポートを完成させ、提出する。	
6	挨拶・訪問の実践	学生生活に必要な挨拶・訪問等をロールプレイング方式で学ぶ。	伊東 中野
	事前学習 10分	先輩の話し方やマナーを観察しておく。伝え方や表現方法を自分なりに考えてくる。	
	事後学習 30分	日常生活で必ず実践する。	
7	テーマに沿ったスピーチ1	テーマに沿ったスピーチをするための原稿を作成する。	渡辺・江 木・伊東
	事前学習 30分	事前に提示されたテーマから一つ選びスピーチに用いる内容を考えてくる。	
	事後学習 60分	スピーチの原稿の構成を考える。	
8	テーマに沿ったスピーチ2	スピーチ原稿を完成させ、スピーチの練習をする。	渡辺・江 木・伊東
	事前学習 60分	原稿の内容をまとめる。	
	事後学習 30分	スピーチの練習をする。	
9	テーマに沿ったスピーチ3 (プレゼンテーション2)	発表または他の人の発表を聴講する。	渡辺・江 木・伊東
	事前学習 30分	発表の練習をする。	
	事後学習 40分	発表した人は自分の課題をみつけ、修正した原稿を清書して提出する。聴講のみだった人は次回の自分の発表に活かせる点を見つける。	
10	プロジェクト学習1	手紙の書き方の基本を学ぶ。	中野
	事前学習 30分	手紙の種類や時候の挨拶などを調べる。	
	事後学習 60分	学習をふり振り返り、今後の生活への活かし方を考える。	

11	プロジェクト学習2	短期大学における学びの成果を出身高校に報告するための原稿を作成する。	渡辺・江木・伊東
	事前学習 30分	短大入学後の学びの成果をまとめる。	
	事後学習 60分	手紙の構成を見直す。	
12	プロジェクト学習3	手紙（出身高校への報告文）を清書する。	渡辺・江木・伊東
	事前学習 30分	手紙の書き方を見直す。	
	事後学習 30分	手紙の内容を発表する準備をする。	
13	プロジェクト学習4 (プレゼンテーション3)	発表または他の人の発表を聴講する。	中野
	事前学習 30分	発表の練習をする。	
	事後学習 60分	高校訪問または手紙を投函して、短大における学びの成果を出身高校の先生に伝える。	
14	まとめ	全体の振り返り・ポートフォリオ入力	渡辺 伊東
	事前学習 30分	ポートフォリオの内容を確認する。	
	事後学習 40分	前学期全体の学習内容を振り返り、今後の生活への活かし方を考える。	

科 目 名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
情報技術 (情報技術Ⅰ)	卒業必修	共通	1年 前学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件					AL
共通科目		なし					6・7, 14
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
文書作成ソフトウェアによる各種文書の作成、表計算ソフトウェアによる各種帳票の作成、帳票に必要な計算式・関数の作成、プレゼンテーションソフトウェアによる発表資料の作成についてそれぞれ練習を繰り返し行い、演習課題を通じて理解につなげる。また、情報を取り扱うためのマナーについて学ぶ。							
到達（成績評価A）目標							
情報機器の基本的な操作について、大学生として求められるICT（情報や通信に関する技術）の利活用（リテラシー）について学び、総合的に実施できるようになる。【DP1:知識・技能】							
単位取得（成績評価C）目標							
情報機器の基本的な操作について、大学生として求められるICT（情報や通信に関する技術）の利活用（リテラシー）について学び、基本的部分が実施ができるようになる。【DP1:知識・技能】							
教科書							
『情報利活用基本演習Office2019対応』 日経BP社 ¥1,815 『2020年度版 情報倫理ハンドブック』 noa出版 ¥367							
参考書・資料							
なし（適宜プリントを配布する）							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題説明と説明後の課題作成を経て、受講学生の課題を授業最後に一人一人教員が確認する。問題があればその場で指摘する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
・ 専攻別に分けて授業を行う。aクラスは食物栄養専攻、bクラスは生活デザイン専攻である。 ・ 毎回の授業に演習課題を課す。 ・ 13, 14回目の授業では情報操作の総復習の問題を課す。							
成績評価方法			成績評価基準				
受講態度(20%) 毎回授業の課題提出(40%) 学修成果の確認のための試験(40%) の総合評価			S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格				

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認してください。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
情報技術 (情報技術Ⅰ)	卒業必修	共通	1年 前学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件					AL
共通科目		なし					6・7, 14

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	ガイダンス、文書の作成と管理	情報演習室の利用、新規文書の作成・保存、文字の装飾	
	事前学習 5分	シラバスを読んでもくる	
	事後学習 60分	情報演習室の利用方法を確認、Wordの装飾を復習する	
2	情報を利用する、正しく取り扱う1 一般的なビジネス文書の作成	著作権を遵守する 社外・社内文書の書き方、文字位置（インデント、タブ）	
	事前学習 30分	教科書7ページを読んでもくる	
	事後学習 60分	著作権の種類、Wordのインデント・タブを復習する	
3	情報を正しく取り扱う2 レポート・報告書の作成	著作権の例外規定（引用と私的使用）を知る 大学レポートの書き方、段落設定、書式設定	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでもくる	
	事後学習 60分	著作権の引用と私的使用、Wordの段落設定、書式設定を復習する	
4	情報を正しく取り扱う3 他データを利用した文書の作成	肖像権を守る 他文章、Excel、写真の挿入と編集	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでもくる	
	事後学習 60分	肖像権、Wordから写真の挿入と編集を復習する	
5	情報を正しく取り扱う4 表作成の基本動作	個人情報を守る 文字・数値・数式の入力、ブックの保存	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでもくる	
	事後学習 60分	個人情報、Excelの数式の入力を復習する	
6	情報を正しく取り扱う5 表の編集操作	SNSのマナーを知る 幅の調整、表構成の変更、セル内編集	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでもくる	
	事後学習 60分	SNSの使い方、Excelの表の入力・編集を復習する	
7	情報を正しく取り扱う6 数式・関数による集計表の作成	メールの送り方を知る 絶対・相対参照、平均、最大・最小	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでもくる	
	事後学習 60分	メールを送る文面、Excelの基本関数と絶対相対参照を復習する	
8	情報の安全性を守る1 グラフの作成・編集	守るべき情報や安全に運用するポイントを知る グラフのラベル・目盛、要素の書式	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでもくる	
	事後学習 60分	守るべき情報や運用方法、Excelのグラフの作成と編集を復習する	
9	情報の安全性を守る2 プレゼンテーションの基本操作1	安全性を脅かすものを知る スライドのデザイン、箇条書き、段落番号の作成・編集	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでもくる	
	事後学習 60分	ウイルスからの保護、PowerPoint (PP) の基本入力を復習する	
10	情報の安全性を守る3 プレゼンテーションの基本操作2	安全性を守る技術的対策を知る 特殊の文字やイラストの挿入、表やグラフの挿入	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでもくる	
	事後学習 60分	安全技術の方法、PPのグラフ、表の挿入を復習する	

11	プレゼンテーションの基本操作3	図形の挿入、アニメーション効果	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んてくる	
	事後学習 60分	PPの図形の挿入とアニメーションを復習する	
12	プレゼンテーションデザイン イラスト・写真の活用と編集	センスアップのためのレイアウトデザイン イメージを伝えるためのイラスト・写真の編集操作	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んてくる	
	事後学習 60分	訴求効果のあるPPの書き方を復習する	
13	情報操作総復習	Word2019、Excel2019、PowerPoint2019総復習	
	事前学習 30分	総復習で使用した資料を読んてくる	
	事後学習 60分	今までの授業の操作全てを復習する	
14	まとめ	全体の振り返りと学修成果の確認のための試験	
	事前学習 30分	総復習で使用した資料を読んてくる	
	事後学習 60分	今までの授業の操作全てを復習する	

科 目 名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
ビジネスエクセル (情報技術Ⅱ)	選択	共通	1,2年 後学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件					AL
共通科目		情報技術（情報技術Ⅰ）単位取得者					6・7,14
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
現在の学生生活、その先の仕事や社会生活で使われる可能性の高いものを例に挙げ、表計算ソフトEXCELを活用して処理する方法を取り上げる。時間・金額等のデータ記録管理、検索抽出などのデータ操作と活用、グラフを活用した視覚的な表現力の向上を目指しながら、入力ミスを防ぐ方法や、データベースを表に集計する方法などを学ぶ。							
到達（成績評価A）目標							
さまざまな社会的活用事例を通じて、EXCELの基本・応用的な機能を使いこなしながら、必要に応じてミス無く作成・修正・追加を練習し、一から自分の必要な事例を作成し、総合的に処理することができる。【DP1:知識・技能】							
単位取得（成績評価C）目標							
さまざまな社会的活用事例を通じて、EXCELの基本・応用的な機能を使いこなしながら、必要に応じてミス無く作成・修正・追加を練習し、一から自分の必要な事例を作成し、基本的な部分を処理することができる。【DP1:知識・技能】							
教科書							
なし（毎回資料を配布する）							
参考書・資料							
なし（適宜プリントを配布する）							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題説明と説明後の課題作成を経て、受講学生の課題を授業最後に一人一人教員が確認する。問題があればその場で指摘する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
毎回の授業に演習課題を課す。							
成績評価方法			成績評価基準				
受講態度(20%) 課題提出(80%) の総合評価			S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格				

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認してください。

科 目 名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
ビジネスエクセル (情報技術Ⅱ)	選択	共通	1,2年 後学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件					AL
共通科目		情報技術（情報技術Ⅰ）単位取得者					6・7,14

授業のスケジュール

回	項 目	内 容	担当者
1	アンケート集計	表作成、式・関数計算、条件付き書式、データの抽出	
	事前学習 5分	シラバスを読んてくる	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
2	アルバイト勤務表	日付、時刻の管理、金額計算	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
3	案内状、納品書	納品書とは、商品コード、商品名の検索、入力規則	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
4	請求書	請求書とは、商品コード、商品名の検索	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
5	売上分析、栄養成分表、体制表	表の印刷、特殊なグラフ、SmartArtグラフィック	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
6	家計簿	日付関数、収入残高計算、月単位と年単位の管理	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
7	売上分析	シートの連携、複合グラフ、スパークライン	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
8	売上分析	レコードの条件抽出・並び替え、小計の出し方	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
9	売上分析・アンケート集計1	3D集計の方法（ピボットテーブル、ピボットグラフ）	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
10	売上分析・アンケート集計2	3D集計の方法（ピボットテーブル、ピボットグラフ）	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	

11	点数管理	順位関数、条件付き書式、分布グラフ、照合関数（INDEX・MATCH）	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
12	顧客住所録	データの管理・修正（全半角、空白文字の扱い、文字列の取り出し）	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
13	会社統計計算	年月日の引き算、数える関数、複数の条件のもとでの計算、式の結合	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
14	賃金計算	年月日関数、AND・OR関数、時刻のシリアル値、時間の計算	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	

科 目 名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
ビジネスワード (情報技術Ⅲ)	選択	共通	1,2年 後学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件					AL
共通科目		情報技術（情報技術Ⅰ）単位取得者					6・7
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
文書作成ソフトウェアWordについて、決められた目的や課題に対して正確に、美しく、速く作るための基礎・応用を学びながら、繰り返しの演習を通じ、他授業や就職後に向けて実践的な技能を得ることを目指す。							
到達（成績評価A）目標							
各自のレベルに合わせた指導を通じて、目標も段階的に設定する。資格取得が十分可能な学生に対しては、Word文書処理技能認定試験（サーティファイ、ソフトウェア活用能力認定委員会）の2級取得を目指す。この資格は、事務職には欠かせない資格として、学生・社会人を対象に実施される情報系の資格である。本授業では、Word文書処理技能認定試験2級の取得を目指し、総合的なビジネス文書処理ができるようになる。【DP1:知識・技能】							
単位取得（成績評価C）目標							
各自のレベルに合わせた指導を通じて、目標も段階的に設定する。資格取得が十分可能な学生に対しては、Word文書処理技能認定試験（サーティファイ、ソフトウェア活用能力認定委員会）の2級取得を目指す。この資格は、事務職には欠かせない資格として、学生・社会人を対象に実施される情報系の資格である。本授業では、Word文書処理技能認定試験2級の取得を目指し、基本的なビジネス文書処理ができるようになる。【DP1:知識・技能】							
教科書							
なし（必要に応じて資料を配布する）							
参考書・資料							
なし							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題説明と説明後の課題作成を経て、受講学生の課題を授業最後に一人一人教員が確認する。問題があればその場で指摘する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
Wordの活用に必要な知識を得ながら、実技として、美しいWord文書の例に従い、作成の練習を行う。1回の授業を前半後半に分け、前半は知識問題を中心に、後半は実技問題を中心とする。							
成績評価方法		成績評価基準					
授業中の態度(20%) 授業中と授業後の課題提出(80%) の総合評価		S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格					

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認してください。

科 目 名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
ビジネスワード (情報技術Ⅲ)	選択	共通	1,2年 後学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件					AL
共通科目		情報技術（情報技術Ⅰ）単位取得者					6・7

授業のスケジュール

回	項 目	内 容	担当者
1	知識問題1前半/実技1前半	作業環境・環境の設定と変更/ページ設定、レイアウト変更など	
	事前学習 5分	シラバス及び知識練習問題1を読んてくる	
	事後学習 60分	知識問題1とページ設定、レイアウトを復習する	
2	知識問題1後半/実技1中盤	作業環境・環境の設定と変更/ワードアートなど	
	事前学習 60分	知識練習問題1を読んてくる	
	事後学習 60分	知識問題1とページ設定、ワードアートを復習する	
3	知識問題2前半/実技1後半	書式設定/図形の編集など	
	事前学習 60分	知識練習問題2を読んてくる	
	事後学習 60分	知識問題2と図の編集を復習する	
4	知識問題2中盤/実技2前半	書式設定/ヘッダーとフッターの文字と図形編集など	
	事前学習 60分	知識練習問題2を読んてくる	
	事後学習 60分	知識問題2とヘッダーとフッターを復習する	
5	知識問題2後半/実技2中盤	書式設定/スタイルの定義と適用など	
	事前学習 60分	知識練習問題2を読んてくる	
	事後学習 60分	知識問題2とスタイルの定義と適用を復習する	
6	知識問題3/実技2後半	ファイル・ページ設定・印刷/表の編集など	
	事前学習 60分	知識練習問題3を読んてくる	
	事後学習 60分	知識問題3と表の編集を復習する	
7	知識問題4前半/実技3前半	文書編集/文章の挿入、段落と改行など	
	事前学習 60分	知識練習問題4を読んてくる	
	事後学習 60分	知識問題4と文章の挿入、段落と改行を復習する	
8	知識問題4後半/実技3中盤	文書編集/段組みと段区切りなど	
	事前学習 60分	知識練習問題4を読んてくる	
	事後学習 60分	知識問題4と段組みと段区切りを復習する	
9	知識問題5前半/実技3後半	罫線と表/SMARTArtの作成と編集など	
	事前学習 60分	知識練習問題5を読んてくる	
	事後学習 60分	知識問題5とSMARTArtの作成と編集を復習する	
10	知識問題5後半/実技4前半	罫線と表/タブとリーダーなど	
	事前学習 60分	知識練習問題5を読んてくる	
	事後学習 60分	知識問題5とタブとリーダーを復習する	

11	知識問題6/実技4中盤	オブジェクト/箇条書きなど	
	事前学習 60分	知識練習問題6を読んてくる	
	事後学習 60分	知識問題6と箇条書きを復習する	
12	知識模擬問題1と2/実技4後半	15分知識試験と解説の2回分/表の配置など	
	事前学習 60分	知識練習問題1～6を再復習する	
	事後学習 60分	知識模擬問題1と2と表の配置を復習する	
13	知識模擬問題3/実技模擬問題3	15分知識試験と解説/実技のまとめ	
	事前学習 60分	実技練習問題1～4の方法を再復習する	
	事後学習 60分	知識模擬問題3を復習する	
14	実技模擬問題	実技問題(90分)	
	事前学習 60分	実技練習問題1～4の方法を再復習する	
	事後学習 60分	実技問題1の内容を復習する	

科 目 名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
ビジネスパワーポイント (情報技術Ⅳ)	選択	共通	1,2年 後学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件					AL
共通科目		情報技術（情報技術Ⅰ）単位取得者					6・7
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
プレゼンテーションソフトウェアPowerPointについて、決められた目的や課題に対して正確に、美しく、速く作るための基礎・応用を学びながら、繰り返しの演習を通じ、他授業や就職後に向けて実践的な技能を得ることを目指す。							
到達（成績評価A）目標							
各自のレベルに合わせた指導を通じて、目標も段階的に設定し、資格取得が十分可能な学生に対しては、PowerPointプレゼンテーション技能認定試験（サーティファイ、ソフトウェア活用能力認定委員会）の上級取得を目指す。この資格は、販売・営業職には欠かせない資格として、学生・社会人を対象に実施される情報系の資格である。本授業は、PowerPointプレゼンテーション技能認定試験上級の取得を目指し、総合的なプレゼンテーション処理ができるようになる。【DP1:知識・技能】							
単位取得（成績評価C）目標							
各自のレベルに合わせた指導を通じて、目標も段階的に設定し、資格取得が十分可能な学生に対しては、PowerPointプレゼンテーション技能認定試験（サーティファイ、ソフトウェア活用能力認定委員会）の上級取得を目指す。この資格は、販売・営業職には欠かせない資格として、学生・社会人を対象に実施される情報系の資格である。本授業は、PowerPointプレゼンテーション技能認定試験上級の取得を目指し、基本的なプレゼンテーション処理ができるようになる。【DP1:知識・技能】							
教科書							
なし（必要に応じて資料を配布する）							
参考書・資料							
なし							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題説明と説明後の課題作成を経て、受講学生の課題を授業最後に一人一人教員が確認する。問題があればその場で指摘する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
PowerPointの活用に必要な知識を得ながら、実技として、美しいPowerPointプレゼンテーションの例に従い、資料作成の練習を行う。1回の授業を前半後半に分け、前半は知識問題を中心に、後半は実技問題を中心とする。							
成績評価方法		成績評価基準					
授業中の態度(20%) 授業中と授業後の課題提出(80%) の総合評価		S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格					

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認してください。

科 目 名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
ビジネスパワーポイント (情報技術Ⅳ)	選択	共通	1,2年 後学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件					AL
共通科目		情報技術（情報技術Ⅰ）単位取得者					6・7

授業のスケジュール

回	項 目	内 容	担当者
1	知識問題1/実技1前半	作業環境・環境の設定と変更/スライドマスターの使い方など	
	事前学習 5分	シラバス及び知識練習問題1を読んてくる	
	事後学習 60分	知識練習問題1とスライドマスターを復習する	
2	知識問題2/実技1中盤	書式設定/SMARTArtグラフィックの使い方など	
	事前学習 60分	知識練習問題2を読んてくる	
	事後学習 60分	知識練習問題2とSMARTArtグラフィックを復習する	
3	知識問題3/実技1後半	スライド/アニメーションの使い方など	
	事前学習 60分	知識練習問題3を読んてくる	
	事後学習 60分	知識練習問題3とアニメーションを復習する	
4	知識問題4/実技2前半	ファイル/表の編集など	
	事前学習 60分	知識練習問題4を読んてくる	
	事後学習 60分	知識練習問題4と表の編集を復習する	
5	知識問題5/実技2中盤	編集/動作設定ボタンの使い方など	
	事前学習 60分	知識練習問題5を読んてくる	
	事後学習 60分	知識練習問題5と動作設定ボタンを復習する	
6	知識問題6/実技2後半	罫線と表/画面切り替えの使い方など	
	事前学習 60分	知識練習問題6を読んてくる	
	事後学習 60分	知識練習問題6と画面切り替えを復習する	
7	知識問題7/実技3前半	オブジェクト、図形/図の挿入など	
	事前学習 60分	知識練習問題7を読んてくる	
	事後学習 60分	知識練習問題7と図の挿入を復習する	
8	知識問題8/実技3中盤	校閲/ハイパーリンクの使い方など	
	事前学習 60分	知識練習問題8を読んてくる	
	事後学習 60分	知識練習問題8とハイパーリンクを復習する	
9	知識模擬問題1/実技3後半	15分知識試験と解説/画像の挿入など	
	事前学習 60分	知識練習問題1～8を再復習する	
	事後学習 60分	知識模擬問題1と画像の挿入を復習する	
10	知識模擬問題2/実技4前半	15分知識試験と解説/スライドマスターの複製とスライド変更など	
	事前学習 60分	知識練習問題1～8を再復習する	
	事後学習 60分	知識模擬問題2とスライドマスター複写を復習する	

11	知識模擬問題3/実技4後半	15分知識試験と解説/ワードアートの使い方など	
	事前学習 60分	知識練習問題1～8を再復習する	
	事後学習 60分	知識模擬問題3とワードアートを復習する	
12	実技模擬問題1	実技問題1(90分)	
	事前学習 60分	実技練習問題1～4の方法を再復習する	
	事後学習 60分	実技問題1の内容を復習する	
13	実技模擬問題2	実技問題2(90分)	
	事前学習 60分	実技練習問題1～4の方法を再復習する	
	事後学習 60分	実技問題2の内容を復習する	
14	模擬試験	本試験対策	
	事前学習 60分	知識問題と実技問題の模擬問題を再復習する	
	事後学習 60分	模擬問題を復習する	

科 目 名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
心理学	選択	共通	1年 前学期	講義	2	さくま なおと はらしま まさゆき 佐久間 直人・原島 雅之	オムニ バス
科目区分		履修条件					AL
共通科目（社主事）		特になし					6・7, 16
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
心とは何でしょうか。自分にとっても身近で明らかなものであるように思える一方で、考えれば考えるほど複雑で難しいもののようにも思えます。そのような対象について、心理学は100年以上にわたって科学的に解明しようと様々な試みを行ってきました。多くの先人たちがどのような工夫を行い、そしてその結果どのようなことがわかってきたのか、色々な心理学の分野における知見について紹介していきます。							
到達（成績評価A）目標							
・日常生活における身近な心理学的現象について、授業で学んだ知見をもとに説明することができる。【DP1：知識・技能】 ・「心のはたらき」における社会的機能や適応的意義について説明をすることができる。【DP1：知識・技能】 ・「心」を科学的に扱うということについて、基本的な説明ができるようになる【DP1：知識・技能】							
単位取得（成績評価C）目標							
・授業で学んだ心理学的知見について、具体的な例を挙げて説明することができる。【DP1：知識・技能】 ・「心のはたらき」について、心理学的用語を使って説明をすることができる。【DP1：知識・技能】 ・心理学における実験や調査的手法について、具体的な例を挙げて説明することができる【DP1：知識・技能】							
教科書							
特になし							
参考書・資料							
毎回の授業においてプリントを配布							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
・授業中の私語やスマートフォン操作を禁ずる（活用する場合は指示する）。 ・他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることがある。							
成績評価方法			成績評価基準				
以下の項目の総合評価とする。 学修成果の確認のための試験(70%) リアクションペーパーなどの課題(30%)			S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格				

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認してください。

科 目 名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
心理学	選択	共通	1年 前学期	講義	2	さくま なおと はらしま まきゆき 佐久間 直人・原島 雅之	オムニ バス
科目区分		履修条件					AL
共通科目（社主事）		特になし					6, 16

授業のスケジュール

回	項 目	内 容	担当者
1	心理学とは	心理学という学問の概要と歴史	佐久間
	事前学習 10分	シラバスを読む	
	事後学習 10分	配布資料について復習する	
2	感覚・知覚①	ものを見る仕組みと錯視	佐久間
	事前学習 10分	心理学が扱う「心」について考えを整理しておく	
	事後学習 20分	身近にある錯視を探してみる	
3	感覚・知覚②	感覚の測定法と法則	佐久間
	事前学習 10分	対象と背景の区別や奥行き把握など「見る」ことに必要な要素を考えておく	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	
4	学習・条件づけ①	古典的条件づけによる行動の形成	佐久間
	事前学習 10分	自分の癖や好き嫌いについて考えておく	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	
5	学習・条件づけ②	道具的条件づけによる行動の形成	佐久間
	事前学習 10分	好き嫌いについて、古典的条件づけを用いた説明を考えておく	
	事後学習 20分	自分の癖や好き嫌いについて心理学的に説明し、修正方法を考える	
6	認知・記憶	記憶の仕組みと認知	佐久間
	事前学習 10分	うっかり読み間違いをした単語を思い出し、メモしておく	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	
7	認知・思考	論理的な推論と意思決定の法則性	佐久間
	事前学習 10分	自分が下した決定の理由や決め手について考えてみる	
	事後学習 20分	これまでに自分がした法則的な意思決定や誤謬を説明してみる	
8	動機づけ①	モチベーションとは、基本的欲求と目標の追求	原島
	事前学習 10分	自分の目標について考え、整理しておく	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	
9	動機づけ②	目標設定と計画の立て方、自己制御	原島
	事前学習 10分	自分の目標を達成するための計画を考える	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	
10	社会的認知①	他者に対する印象、バイアスとステレオタイプ	原島
	事前学習 10分	身近な他者についてのイメージを考え、整理しておく	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	

11	社会的認知②	自己呈示、社会的自己と自尊心	原島
	事前学習 10分	自分自身についてのイメージを考え、整理しておく	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	
12	パーソナリティ①	性格の諸理論、性格の一貫性	原島
	事前学習 10分	自分や他者の性格について考え、整理しておく	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	
13	パーソナリティ②	性格の測定、性格の背景	原島
	事前学習 10分	人の性格はどう調べられるか、どう形作られるかについて考えておく	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	
14	まとめ	全体の振り返り、学修成果の確認のための試験	原島
	事前学習 60分	これまでの学習内容を振り返り、心理学とはどのような学問か、「心のはたらき」とは何かについて、自分の考えを整理しておく	
	事後学習 30分	試験で答えられなかったところを見直し、学習を定着させる。	

科 目 名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
現代日本の社会問題	選択	共通	2年 前学期	講義	2	わたなべ 渡辺 じゅん 淳	単独
科目区分		履修条件					AL
共通科目		なし					3, 12, 15
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
現代日本の社会問題について、家庭をめぐる経済の問題に始まり、民主政治の条件、教育のあり方を論じ、死をめぐる問題を扱う。講義としているが、できるだけ履修者が積極的に発言できるような進行を予定している。そのために、毎回配布するプリントをよく予習して自分なりの問題点を見つけておくことが望まれる。タイムリーな話題については、DVD等で追加的に学習する。							
到達（成績評価A）目標							
・現代日本の社会問題について基礎事項を修得する。【DP1：知識・技能】 ・現代日本のさまざまな社会問題について説明することができるようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 ・現代日本のさまざまな社会問題について、他の人と意見交換ができるようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 【DP3：主体性・多様性、協働性】							
単位取得（成績評価C）目標							
・現代日本の社会問題について基礎事項を修得する。【DP1：知識・技能】 ・現代日本のさまざまな社会問題について説明することができるようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】							
教科書							
なし（プリントを配布する）							
参考書・資料							
特になし（授業において必要に応じて紹介する）							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
ミニットペーパー(印象に残ったこと、疑問に思ったこと)は翌々週の授業時に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
・遅刻厳禁 ・私語は禁止							
成績評価方法			成績評価基準				
取組み姿勢 (20%) 提出物（小テストを含む） (80%) の総合評価			S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格				

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認してください。

科 目 名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
現代日本の社会問題	選択	共通	2年 前学期	講義	2	わたなべ じゅん 渡辺 淳	単独
科目区分		履修条件					AL
共通科目		なし					3, 12, 15

授業のスケジュール

回	項 目	内 容	担当者
1	国民経済における家庭経済（１）	家庭経済の設計（１）、家計と企業のつながり	
	事前学習 5分	シラバスの該当ページを読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	
2	国民経済における家庭経済（２）	家庭経済の設計（２）、家事労働と市場労働	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	
3	国民経済における家庭経済（３）	就業と生涯賃金、労働市場	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	
4	少子高齢社会と社会経済政策（１）	税、社会保障制度と財政負担・人口構造	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	
5	少子高齢社会と社会経済政策（２）	少子高齢社会と外国人労働政策	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	
6	社会問題としての格差	格差社会としての日本	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	
7	民主政治について（１）	民主主義と全体主義	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	
8	民主政治について（２）	選挙と政権交代	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	
9	民主政治について（３）	テロリズムと日本	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	
10	教育について（１）	民主主義と教育	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	

11	教育について（２）	グローバル化の中の教育	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	
12	死について（１）	死刑と安楽死	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	
13	死について（２）	消費者としての患者と医療	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	
14	死について（３）及びまとめ	葬送のあり方及び全体の振り返り	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題プリントの演習	

科 目 名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
異文化と世界	選択	共通	1年 後学期	講義	2	わたなべ じゅん 渡辺 淳	単独
科目区分		履修条件					AL
共通科目		特になし					—
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
現在、私たちの日々の生活が外国(企業・人)との関係なしには成り立たなくなっている。このようなグローバル世界において生きる知的土台を築くため、異文化理解についての基本的な考え方、その問題点を学びつつ、国際社会の成り立ちの過去から現在を経て未来へと向かう変動の中での人々の価値観・文化の揺らぎを理解する。各種ホームページからの資料や国内・海外のテレビニュース等を利用する。授業進行は、議論の論理的構築及び話題性の両方を考慮して、柔軟に行っていくものとする。							
到達（成績評価A）目標							
・ グローバル世界の現状や文化状況の理解するための基礎力を修得する。【DP1：知識・技術】 ・ 異文化理解のための基本的な考え方を修得する。【DP1：知識・技術】 ・ 国際社会の現在に至るまでの成り立ちの歴史について基本的に理解している。【DP1：知識・技術】 ・ 日常生活における異文化をめぐる問題について、関心をもち、意見を表明し、他者と意見交換ができるようになる。【DP1：知識・技術】【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性、協働性】							
単位取得（成績評価C）目標							
・ グローバル世界の現状や文化状況の理解するための基礎力を修得する。【DP1：知識・技術】 ・ 異文化理解のための基本的な考え方を修得する。【DP1：知識・技術】 ・ 国際社会の現在に至るまでの成り立ちの歴史について基本的に理解している。【DP1：知識・技術】 ・ 日常生活における異文化をめぐる問題について、関心をもち、自分なりの意見を表明することができるようになる。【DP1：知識・技術】【DP2：思考力・判断力・表現力】【DP3：主体性・多様性、協働性】							
教科書							
必要に応じてプリント等を配布する							
参考書・資料							
なし							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
ミニットペーパーは翌々週の授業時に返却する							
履修上の注意・備考・メッセージ							
・ 積極的な発言が期待される ・ 遅刻厳禁 ・ 私語は禁止							
成績評価方法			成績評価基準				
取組み姿勢 (20%) 提出物 (80%) の総合評価			S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格				

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認をしてください。

科 目 名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
異文化と世界	選択	共通	1年 後学期	講義	2	わたなべ じゅん 渡辺 淳	単独
科目区分		履修条件					AL
共通科目		特になし					—

授業のスケジュール

回	項 目	内 容	担当者
1	イントロダクション	なぜ「異文化と世界」を学ぶか	
	事前学習 5分	シラバスを読んでおく	
	事後学習 30分	授業計画の説明を再確認する	
2	日常生活とグローバル化	消費生活、雇用、企業	
	事前学習 30分	配布プリントを読む	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
3	るつぼ、多文化主義、単一民族	米・仏・独・日における状況と経済的効率・政治的統合・文化的理念	
	事前学習 30分	配布プリントを読む	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
4	国民国家	国民国家の神話と現在	
	事前学習 30分	配布プリントを読む	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
5	グローバル経済と企業(1)	経済のグローバル化、多国籍企業、英語社内公用語化問題	
	事前学習 30分	配布プリントを読む	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
6	グローバル経済と企業(2)	金融マーケット、国家主権、民主主義の空洞化	
	事前学習 30分	配布プリントを読む	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
7	ナショナリズムと現代(1)	グローバル化と対抗ナショナリズム	
	事前学習 30分	配布プリントを読む	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
8	ナショナリズムと現代(2)	ナショナリズムの歴史とパターン	
	事前学習 30分	配布プリントを読む	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
9	国際秩序の歴史(1)	ウェストファリア条約、2つの大戦、冷戦、9.11テロと新興国	
	事前学習 30分	配布プリントを読む	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
10	国際秩序の歴史(2)	2つの大戦の反省としての第2次世界大戦後の秩序、ヨーロッパ統合	
	事前学習 30分	配布プリントを読む	
	事後学習 30分	プリントを復習する	

11	各国、各地域の歴史と現在の位置、未来へ向けて(1)	ヨーロッパ（独仏を中心に）、アメリカ、イスラム圏諸国	
	事前学習 30分	配布プリントを読む	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
12	各国、各地域の歴史と現在の位置、未来へ向けて(2)	日本、中国、韓国、東南アジア諸国	
	事前学習 30分	配布プリントを読む	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
13	ヨーロッパ統合とアジア・太平洋地域	アジア・太平洋地域の課題と条件	
	事前学習 30分	配布プリントを読む	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
14	オリンピックおよびまとめ	オリンピックの理念・歴史・問題点及び全体の振り返り	
	事前学習 30分	配布プリントを読む	
	事後学習 30分	プリントを復習する	

科 目 名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
日本国憲法と法律 （日本国憲法）	選択	共通	2年 前学期	講義	2	ともよせ たかのぶ 友寄 隆信	単独
科目区分		履修条件					AL
共通科目		特になし					—
実務経験のある教員による科目							
憲法に定める財政民主主義に関連し、国家財政の会計検査、諸外国との意見交換のための国際会議への出席、国会の予算委員会、決算委員会などでの予算執行等に関する議員質問への答弁などの経験を有した教員より、我が国における憲法の運用実態を学ぶことができる。							
授業の概要							
憲法の基本的枠組み（基本的人権、統治機構）を、出来るだけ身近な事例を取り上げて説明することで、憲法とは何かを理解する。現代法のうち民法や労働関係法などの初歩を理解する。							
到達（成績評価A）目標							
憲法及び現代法の基本を学ぶことにより、政治・社会で起きる様々な出来事に関して、自らの意見をまとめ、表明できるようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 憲法及び現代法に関する問題の意味や資料について十分に理解し、それを踏まえてある程度の分量に達する文章を論理的に作成することができる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】							
単位取得（成績評価C）目標							
憲法及び現代法の基本を学ぶことにより、政治・社会で起きる様々な出来事に関して、自らの意見をまとめ、表明できるようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】							
教科書							
木山泰嗣：『マンガでわかる日本国憲法』 池田書店 （最新版） ￥1,458							
参考書・資料							
①池上彰：『超訳 日本国憲法』 新潮新書（2015） ￥842 ②伊藤真：『伊藤真の日本一わかりやすい憲法入門』 中経出版（初版） ￥1,620 ③中川淳：『現代法学を学ぶ人のために』 世界思想社（第二版） ￥2,530							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
特になし							
課題に対するフィードバック							
提出されたレポートにコメントを加え改善点などを指導する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
授業中、前後の質問大歓迎。							
成績評価方法			成績評価基準				
学修成果確認のための試験(70%)、授業態度(30%)の総合評価。			S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格				

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認してください。

科 目 名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
日本国憲法と法律	選択	共通	2年 前学期	講義	2	ともよせ たかのぶ 友寄 隆信	単独
科目区分		履修条件					AL
共通科目		特になし					—

授業のスケジュール

回	項 目	内 容	担当者
1	社会生活と法律	法とは何か、法の歴史と発展、法の分類、解釈と適用	
	事前学習 30分	参考書③の関連箇所を読むこと	
	事後学習 20分	参考書③の関連箇所での復習	
2	憲法の歴史	憲法は何のためにあるか、近代憲法の誕生、日本国憲法の制定	
	事前学習 40分	教科書該当箇所を読むこと	
	事後学習 20分	参考書②の関連箇所での復習	
3	憲法の基本原理と平和主義	国民主権と象徴天皇、憲法9条と自衛隊・日米安保条約	
	事前学習 30分	教科書該当箇所を読むこと	
	事後学習 20分	参考書②の関連箇所での復習	
4	基本的人権の原理	人権の意味・特徴・分類、公共の福祉による制限、個人の尊重	
	事前学習 30分	教科書該当箇所を読むこと	
	事後学習 20分	参考書②の関連箇所での復習	
5	法の下での平等	法の下での平等の意味、一票の格差、男女の平等	
	事前学習 10分	教科書該当箇所を読むこと	
	事後学習 20分	参考書②の関連箇所での復習	
6	自由権	表現の自由とプライバシー、思想・信教の自由、人身の自由	
	事前学習 30分	教科書該当箇所を読むこと	
	事後学習 30分	参考書②の関連箇所での復習	
7	福祉国家と社会権、参政権	生存権、教育を受ける権利、労働権	
	事前学習 20分	教科書該当箇所を読むこと	
	事後学習 20分	参考書②③の関連箇所での復習	
8	国会	健力分立の原理、国権の最高機関、二院制	
	事前学習 30分	教科書該当箇所を読むこと	
	事後学習 30分	参考書②の関連箇所での復習、配付プリントを復習	
9	内閣、司法、財政	議院内閣制、司法権の独立、財政民主主義	
	事前学習 30分	教科書該当箇所、配付プリントを読むこと	
	事後学習 30分	参考書②の関連箇所での復習、配付プリントを復習	
10	民法入門、財産権	民法とは何か、権利能力、物権と債権、時効など	
	事前学習 30分	参考書③の関連箇所を読むこと	
	事後学習 20分	同上などで復習	

11	社会生活と契約、不法行為	契約の自由とその限界、不法行為の意義、損害賠償など	
	事前学習 30分	参考書③の関連箇所を読むこと	
	事後学習 30分	同上などで復習	
12	就職と労働法	労働契約の成立（採用）、労働基準法、働き方改革など	
	事前学習 30分	参考書③の関連箇所を読むこと	
	事後学習 20分	同上などで復習	
13	家族生活と法	親子、婚姻・離婚、扶養、相続	
	事前学習 30分	参考書③の関連箇所を読むこと	
	事後学習 30分	同上などで復習	
14	まとめ	憲法改正など全般の振り返り、学修成果確認のための試験	
	事前学習 100分	教科書全般、配布プリントをよく読んで理解すること	
	事後学習 60分	同上で復習	

科 目 名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
ボランティア論	選択	共通	1年 前学期	講義	2	なかの 中野 みやこ 都	単独
科目区分		履修条件					AL
共通科目		特になし					11, 17
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
ボランティアの理念、目的、原則、意義、現状、問題点を学ぶとともに、履修生がボランティア活動に参加する機会を作り、参加後にはディスカッションの場を設けボランティア活動に対する知見を広げる。また、社会的な活動を通して社会に貢献すること、コミュニケーション能力の向上及び自己実現に向けての機会を得ることとはどのようなことなのかについて共に考える。							
到達（成績評価A）目標							
講義で学ぶ理論とボランティア活動の実践を通して得られた知識及び技術を合わせて、社会貢献することを目指すとする。 1. ボランティアの理念、目的、基本原則を踏まえて自分で興味のあるボランティア活動に参加し、活動の意義について説明できる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 【DP3：主体性・多様性・協働性】 2. ボランティア活動を通じて自己、他者を知ることができ、コミュニケーション能力の向上及び自己実現の機会となることを理解し、活動の場を広げることができる。【DP3：主体性・多様性・協働性】							
単位取得（成績評価C）目標							
講義で学ぶ理論とボランティア活動の実践を通して得られた知識及び技術を合わせて、社会貢献することを目指すとする。 1. ボランティアの理念、目的、基本原則を踏まえて自分で興味のあるボランティア活動に参加し、活動の意義について考えることができる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 【DP3：主体性・多様性・協働性】 2. ボランティア活動を通じて自己、他者を知り、活動の場を広げることができる。【DP3：主体性・多様性・協働性】							
教科書							
授業中に資料・プリントを配布する。							
参考書・資料							
桜井政成、津止正敏編著：『ボランティア教育の新地平』ミネルヴァ書房¥3,080 岡本榮一、菅井直也他編：『学生のためのボランティア論』社会福祉法人大阪ボランティア協会¥1,980							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
1. 講義を受けるだけでなく、日常生活の中でボランティア活動の実践に取り組む。 2. 授業中のスマートフォンの使用を禁止する。 3. パソコン室では音楽や動画、ゲームの操作及び授業内容に関連のないインターネットの視聴を禁止する。							
成績評価方法			成績評価基準				
学修成果確認のための試験(40%) ボランティア体験の活動報告書・レポート(40%) 受講態度(20%) の総合評価			S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格				

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認してください。

科 目 名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
ボランティア論	選択	共通	1年 前学期	講義	2	なかの みやこ 中野 都	単独
科目区分		履修条件					AL
共通科目		特になし					11, 17

授業のスケジュール

回	項 目	内 容	担当者
1	ボランティア活動について（１）	ボランティアの理念・目的	
	事前学習 15分	シラバスを読み、学習内容を把握する。	
	事後学習 30分	ボランティアの理念と目的について確認する。	
2	ボランティア活動について（２）	ボランティア活動の基本原則	
	事前学習 15分	ボランティア活動に参加するにはどのような姿勢で臨めばよいかを考える。	
	事後学習 30分	ボランティア活動の基本原則を確認する。	
3	ボランティア活動について（３）	実際のボランティア活動	
	事前学習 15分	ボランティア活動にはどのような種類があるか考える。	
	事後学習 30分	ボランティア活動の種類を理解する。	
4	ボランティア活動について（４）	ボランティア参加の意義	
	事前学習 15分	なぜボランティア活動に参加するのかについて考える。	
	事後学習 30分	学習した内容をボランティアの場でどのように活かせるか考える。	
5	ボランティア活動について（５）	ボランティア活動と公共	
	事前学習 15分	自分ができる地域貢献について考える。	
	事後学習 30分	社会参加としてのボランティア活動を捉える。	
6	ボランティア活動について（６）	ボランティア活動とNPO法人（特定非営利活動）	
	事前学習 15分	NPO法人の意味を調べておく。	
	事後学習 30分	NPO法人の活動について関心を持つ。	
7	ボランティア活動について（７）	NPO法人の種類とその具体的な活動	
	事前学習 15分	自分が興味ある分野のNPO法人の活動について情報を得る。	
	事後学習 30分	NPO法人の種類とその具体的な活動について理解を深める。	
8	ボランティア活動について（８）	ボランティアセンターの役割と機能	
	事前学習 15分	居住地のボランティアセンター設置の有無を知る。	
	事後学習 60分	居住地のボランティアセンターの活動内容をまとめる。	
9	ボランティア活動について（９）	自分にあったボランティア活動とは	
	事前学習 30分	自分がどんなボランティア活動ができるか、したいかを考える。	
	事後学習 60分	自分にあったボランティア活動を探す。	
10	ボランティア活動について（１０）	ボランティアの心構え	
	事前学習 15分	ボランティア活動に参加するにはどのような心構えで臨めばよいかを考える。	
	事後学習 30分	学習した内容をボランティアの場でどのように活かせるか考える。	

11	ボランティア活動の実践（１）	国際ボランティア活動とは	
	事前学習 15分	国際ボランティア活動について関心を持つ。	
	事後学習 30分	国際ボランティア活動について情報を収集する。	
12	ボランティア活動の実践（２）	JICA国際協力出前講座	
	事前学習 30分	講師の派遣国について把握して出前講座に臨む。	
	事後学習 60分	出前講座内容をまとめる。	
13	ボランティア活動の実践（３）	学外ボランティア活動の実践	
	事前学習 30分	参加するボランティア活動について内容を把握する。	
	事後学習 60分	参加したボランティア活動内容をまとめ、レポートを完成させる。	
14	まとめ	学外ボランティア活動の報告会と学修成果確認のための試験	
	事前学習 180分	ボランティア活動内容についてまとめる。前学期全体の学習内容を振り返る。	
	事後学習 60分	報告会の内容を振り返り、自分が関心興味あるボランティア活動について理解を深める。試験で出来なかったところを見直し、学習を定着させる。	

科 目 名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
キャリア形成Ⅰ	卒業必修	共通	1年 前学期	演習	1	おだじま ゆみこ 小田島 祐美子	単独
科目区分		履修条件					AL
共通科目		特になし					15
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
自らが社会に必要とされる人財になるには、社会の変化に対応し、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力や社会人・企業人として自律していける能力を身に付ける必要がある。そのために必要な心構えやマナー、身だしなみ、言葉遣いを学ぶ。また、就職活動の流れ、基礎知識、自己分析、企業研究の方法、履歴書の書き方を学び、就職活動に必要な事項の習得を行う。							
到達（成績評価A）目標							
1. 自分のキャリアデザインについて、具体的に示すことができる。【DP2：思考力・判断力・表現力】 2. 就職活動を行うにあたり知識と心得を身につけている。【DP1：知識・技術】 3. 自分を分析し、適切な自己表現ができる。【DP2：思考力・判断力・表現力】 4. 就職活動に必要な企業の情報を目的に応じて得ることができる。【DP1：知識・技術】 5. 就職活動に必要な履歴書を適切に作成できる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】							
単位取得（成績評価C）目標							
1. 自分のキャリアデザインについて、示すことができる。【DP2：思考力・判断力・表現力】 2. 就職活動を行うにあたり基本的な知識と心得を身につけている。【DP1：知識・技術】 3. 自分を知り、自己表現ができる。【DP2：思考力・判断力・表現力】 4. 企業研究の方法を説明することができる。【DP1：知識・技術】 5. 就職活動に必要な履歴書を作成できる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】							
教科書							
『ユニキャリアマガジン(大学生の就活編)』（株ディスコ（最新版））¥1,287							
参考書・資料							
授業内に適宜指示、プリントで配布							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
・やむを得ず欠席した場合は、次回までに連絡事項や提出物について聞きに来ること。 ・体調不良以外の途中退室禁止、私語禁止、スマートフォン使用禁止。 ・進行の都合により、内容が前後することがある。 ・セミナーは制服着用のこと。							
成績評価方法			成績評価基準				
受講態度(50%) 提出物 (50%) の総合評価			S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格				

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認してください。

科 目 名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
キャリア形成 I	卒業必修	共通	1年 前学期	演習	1	おだじま ゆみこ 小田島 祐美子	単独
科目区分		履修条件					AL
共通科目		特になし					15

授業のスケジュール

回	項 目	内 容	担当者
1	ガイダンス	授業の目的、内容、今後の予定、キャリア形成・キャリアデザインとは	
	事前学習 5分	シラバスを読んでくる。	
	事後学習 10分	自分のキャリアデザインについて考える。	
2	就職活動の流れ・自己分析	就職活動の流れ、自己分析、セミナーの案内	
	事前学習 10分	教科書第1章「自分の魅力を見つけよう！」を読んでくる。	
	事後学習 10分	自己分析方法について復習する。	
3	キャリアデザイン	セミナー(1) (生活設計について) (公) 生命保険文化センター	
	事前学習 10分	将来の生活設計について考えてくる。	
	事後学習 10分	将来の生活設計について具体的に考える。	
4	自己分析と自己PR1	自分史の作成と自己分析	
	事前学習 10分	教科書第1章を読んでくる。	
	事後学習 20分	自分史、長所、短所についてのシートを仕上げる。	
5	自己分析と自己PR2	自己PRの作成 (自己分析からアピールポイントの探求) セミナーの案内	
	事前学習 10分	教科書第1章「自分の魅力を見つけよう！」を読んでくる。	
	事後学習 20分	自己PRシートを仕上げる。	
6	業界・企業研究1	セミナー(2) (企業研究、業界と業種) (株) マイナビ	
	事前学習 10分	教科書第3章「企業・職業のことを勉強しよう！」を読んでくる。	
	事後学習 15分	セミナーの内容を復習する。	
7	企業研究2	企業研究、業界と業種、セミナーの案内	
	事前学習 10分	教科書第3章「企業・職業のことを勉強しよう！」を読んでくる。	
	事後学習 20分	企業研究シートを仕上げる。	
8	就職活動のマナー1	就職活動のマナーについて	
	事前学習 10分	教科書第2章「マナーを身に付けよう！」を読んでくる。	
	事後学習 15分	マナーについて復習する。	
9	履歴書の作成1	履歴書の書き方の説明、履歴書の作成	
	事前学習 10分	教科書第4章「アプローチを開始しよう！」を読んでくる。	
	事後学習 15分	履歴書の表面、裏面を書く。	
10	履歴書の作成2	履歴書の書き方の説明、履歴書の作成	
	事前学習 10分	教科書第4章「アプローチを開始しよう！」を読んでくる。	
	事後学習 15分	履歴書の表面、裏面を書く。	

11	キャリア支援室の使い方	キャリア支援室の使い方、セミナーの案内	
	事前学習 10分	教科書第3章「企業・職業のことを勉強しよう！」を読んでき。	
	事後学習 15分	キャリア支援室を実際に利用する。	
12	卒業生セミナー	卒業生セミナー（体験談の聴講）	
	事前学習 10分	希望職種の卒業生に対しての質問事項を考えてくる。	
	事後学習 10分	希望職種について考える。	
13	就職活動のマナー2	セミナー（3）（マナーについて）	
	事前学習 10分	教科書第2章「マナーを身に付けよう！」を読んでき。	
	事後学習 15分	マナーについて復習する。	
14	履歴書の作成3 まとめ	履歴書提出 まとめ	
	事前学習 15分	履歴書の表面、裏面を仕上げてくる。	
	事後学習 10分	履歴書を完成させ、提出期限まで提出する。就職活動の流れについて復習する。	

科 目 名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
キャリア形成Ⅱ	選択	共通	1年 後学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件					AL
共通科目		キャリア形成Ⅰを履修していること					3, 6・7, 17
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
就職活動の流れに沿い、スケジュール確認、身だしなみ、立ち居振る舞いを含めた面接対応及び実践練習を行う。時事問題、時候の挨拶、敬語等会社訪問や面接の際に好感をもたれる言葉遣いやマナーも習得する。							
到達（成績評価A）目標							
・身につけた知識や技能が必要な場面で最大限発揮できるようになる。【DP1：知識・技能】 ・実際の面接での確な対応が十分できるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】 ・就職活動において、適切な時期に適切な行動を自発的に行えるようになる。【DP3：主体性・多様性・協働】							
単位取得（成績評価C）目標							
・身につけた知識や技能が必要な場面で基本的に発揮できるようになる。【DP1：知識・技能】 ・相手の求めに応じて実際の面接での確な対応ができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力】 ・就職活動において、適切な時期に適切な行動を心がけて実行することができる。【DP3：主体性・多様性・協働】							
教科書							
『ユニキャリアマガジン(大学生の就活編)』（株）ディスコ（キャリア形成Ⅰで使用したテキスト）¥1,263							
参考書・資料							
授業内に適宜指示する							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
・新聞やニュースなどを日常的に見聞きし、政治・経済を中心としたニュースに関心を持つこと。 ・自らの今後の生き方を前向きに捉え、就職活動を主体的に行う心構えを持つこと。 ・やむを得ず欠席した場合は、授業内容と連絡事項を必ず聞きに来ること。 ・授業の進捗やセミナーによっては、スケジュールを変更することがある。							
成績評価方法			成績評価基準				
受講態度（50%） 提出物（50%） の総合評価			S（100-90点）：到達目標を超えたレベルを達成している A（89-80点）：到達目標を達成している B（79-70点）：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C（69-60点）：単位修得目標を達成している D（59-0点）：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格				

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認をしてください。

科 目 名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
キャリア形成Ⅱ	選択	共通	1年 後学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件					AL
共通科目		キャリア形成Ⅰを履修していること					3, 6・7, 17

授業のスケジュール

回	項 目	内 容	担当者
1	ガイダンス	授業の目的、内容、今後の予定、就職活動のスケジュール	
	事前学習 5分	シラバスをよく読んでくる	
	事後学習 10分	自分の就職活動のスケジュールを考える	
2	就職活動にむけて（１）	就職セミナー(1) 就活メイク	
	事前学習 5分	就活メイクについて調べる	
	事後学習 10分	就職セミナー(1)で学んだことをまとめる	
3	就職活動にむけて（２）	就職セミナー(2) 「志望動機」「学生時代力を入れたこと」の書き方	
	事前学習 10分	履歴書の書き方を復習する	
	事後学習 20分	就職セミナー(2)で学んだことをまとめる	
4	就職活動にむけて（３）	履歴書裏面の書き方・SPI試験について	
	事前学習 10分	履歴書裏面の書き方・SPI試験の準備をする	
	事後学習 20分	履歴書裏面を仕上げる・試験の結果から今後の対策を考える	
5	業界・企業研究（１）	企業とは、業界と職種、企業分析ノート作成	
	事前学習 10分	教科書第3章を読んでくる	
	事後学習 10分	企業研究シート(1)を仕上げる	
6	業界・企業研究（２）	学内企業研究会の事前学習	
	事前学習 10分	教科書第3章を読んでくる	
	事後学習 10分	企業研究シート(2)(3)を仕上げる	
7	業界・企業研究（３）	就職セミナー(3) 学内企業研究会参加	
	事前学習 10分	訪問順序について確認する	
	事後学習 20分	就職セミナー(3)で学んだことをまとめる	
8	履歴書の作成	履歴書の作成	
	事前学習 10分	教科書第4章を読んでくる	
	事後学習 30分	履歴書を清書し提出する	
9	面接試験の研究（１）	面接試験の形式と心得・自己PRの見直し	
	事前学習 10分	面接についてP94～97を読んでくる	
	事後学習 30分	自己PRシートを完成させ覚えてくる	
10	面接試験の研究（２）	就職セミナー(4) 「面接の基本」	
	事前学習 10分	面接についてP98～100を読んでくる	
	事後学習 20分	就職セミナー(4)で学んだことをまとめる	

11	模擬面接の実際（１）	模擬面接の準備、模擬面接のロールプレイ	
	事前学習 10分	面接のロールプレイについて資料を読む	
	事後学習 10分	模擬面接の受け方をまとめる	
12	模擬面接の実際（２）	模擬面接(1)	
	事前学習 10分	模擬面接の準備をする	
	事後学習 10分	模擬面接の報告書を書く	
13	模擬面接の実際（３）	模擬面接(2)	
	事前学習 10分	反省点を生かした模擬面接の準備をする	
	事後学習 10分	模擬面接の報告書を書く	
14	模擬面接の実際（４）	模擬面接の反省と対策	
	事前学習 10分	模擬面接を振り返る	
	事後学習 20分	模擬面接の対策をまとめる	

科 目 名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
ビジネスマナー (秘書技能)	選択	共通	1,2年 前学期	講義	2	みづほ 三 さおり 沙織	単独
科目区分		履修条件					AL
共通科目		教科書購入者					14, 16
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
社会人となるための必要な知識を備えていることの証明として有効な資格の一つが秘書検定であり、「社会について理解するとともに、社会における行動のための基礎的な知識及び能力を身につける」ことにもつながる。就職活動においても、話し言葉や礼儀作法、話し相手へのマナーなどが評価される。秘書検定は、5つの章（マナー・接遇、技能、一般知識、必要とされる資質、職務知識）から成り、出題されるため、章ごとに説明を行い、例題や過去問題に取り組むとともに、各章ごとに振り返りの小テストを行う。第12、13回目の授業では、模擬試験を実施し、その時点での実力を判定し、今後の各自の検定試験対策を行う。							
到達（成績評価A）目標							
秘書検定2級に合格することを目標とする。 1. マナー・接遇についての知識を修得し、行うことができるようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 2. 技能についての知識を修得し、行うことができるようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 3. 一般知識についての知識を修得し、説明できるようになる。【DP1：知識・技術】 4. 必要とされる資質を行うことができるようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 5. 職務知識を修得し、行うことができる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】							
単位取得（成績評価C）目標							
秘書検定3級に合格することを目標とする。 1. マナー・接遇についての知識を修得し、行うことができるようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 2. 技能についての知識を修得し、行うことができるようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 3. 一般知識についての知識を修得し、説明できるようになる。【DP1：知識・技術】 4. 必要とされる資質を行うことができるようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】 5. 職務知識を修得し、行うことができる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】							
教科書							
西村この美：『現役審査委員が教える秘書検定2級・3級テキスト&問題集』 成美堂出版 （最新版） ¥1,210							
参考書・資料							
授業内に適宜指示、プリントで配布 実務技能検定協会編：『秘書検定2級 2021年度版実問題集』 早稲田教育出版 ¥1,320 実務技能検定協会編：『秘書検定3級 2021年度版実問題集』 早稲田教育出版 ¥1,320							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
小テストは、採点ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
・体調不良以外の途中退室禁止、私語禁止、スマートフォン使用禁止。 ・進行の都合により、内容が前後することがある。 ・秘書検定を受験予定者は、さらに参考書資料欄の過去問題集を揃え、取り組むこと。							
成績評価方法			成績評価基準				
学修成果の確認のための試験(50%)、 模擬試験演習(10%)、 小テスト(30%)、 受講態度(10%)の総合評価。			S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格				

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認してください。

科 目 名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
ビジネスマナー (秘書技能)	選択	共通	1年 前学期	講義	2	みつばし 三星 沙織	単独
科目区分		履修条件					AL
共通科目		教科書購入者					14, 16

授業のスケジュール

回	項 目	内 容	担当者
1	ガイダンス 必要とされる資質1	秘書技能検定について 秘書としての心構え 求められる人柄 機密保持	
	事前学習 10分	シラバス、第4章「必要とされる資質」の授業内容の該当ページを読んでくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする	
2	必要とされる資質2 職務知識1	求められる能力 秘書の役割と機能	
	事前学習 10分	第4章「必要とされる資質」 第5章「職務知識」の授業内容の該当ページを読んでくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする。	
3	職務知識2	秘書の業務	
	事前学習 10分	第5章「職務知識」の授業内容の該当ページを読んでくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする。	
4	一般知識	カタカナ用語・略語 企業の基礎知識 経営管理の知識 人事・労務、マーケティングの知識 企業会計・財務・税務の知識	
	事前学習 10分	第3章「一般知識」を読んでくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする。	
5	マナー・接遇1	敬語 接遇用語 人間関係と話し方・聞き方・断り方	
	事前学習 10分	第1章「マナー・接遇」の授業内容の該当ページを読んでくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする。	
6	マナー・接遇2	指示の受け方 報告の仕方 依頼・説得の仕方	
	事前学習 10分	第1章「マナー・接遇」の授業内容の該当ページを読んでくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする。	
7	マナー・接遇3	忠告の仕方・受け方 電話応対 来客応対	
	事前学習 10分	第1章「マナー・接遇」の授業内容の該当ページを読んでくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする。	
8	マナー・接遇4	慶事・パーティーのマナー 弔事のマナー 贈答・見舞いのマナー	
	事前学習 10分	第1章「マナー・接遇」の授業内容の該当ページを読んでくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする。	
9	技能1	会議の知識 社内文書 社外文書 社交文書	
	事前学習 10分	第2章「技能」の授業内容の該当ページを読んでくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする。	
10	技能2	受信文書の取り扱い 「秘」扱い文書の取り扱い 郵便の知識	
	事前学習 10分	第2章「技能」の授業内容の該当ページを読んでくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする。	

11	技能3	ファイリング 資料の整理と管理 スケジュール管理 オフィスのレイアウトと整理	
	事前学習 10分	第2章「技能」の授業内容の該当ページを読んてくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする。	
12	模擬試験1	3級模擬試験演習	
	事前学習 10分	第2章「技能」の授業内容の該当ページを読んてくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする。	
13	模擬試験2	2級模擬試験演習	
	事前学習 60分	教科書全体を読み、苦手分野の復習をしてくる。	
	事後学習 30分	模擬試験の自己採点をする。	
14	まとめ	模擬試験演習解答、学修成果の確認のための試験	
	事前学習 240分	学習内容を振り返り、学修成果の確認のための試験の対策を行う。	
	事後学習 60分	試験でできなかったところを見直し、秘書検定に向けて過去問題に取り組む。	

科 目 名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
運動と健康	卒業必修	共通	1年 後学期	実技 講義	1	さとう ひきの 佐藤 久乃	単独
科目区分		履修条件					AL
共通科目		特になし					6, 7, 9, 12
実務経験のある教員による科目							
長年にわたって高校での体育教師をしていることからその経験を活かして、運動が人々の健康、維持増進に欠かせない役割を果たしていることから運動の大切さ、楽しさを伝えます。							
授業の概要							
様々な運動を通じてその大切さ、楽しさを知る。また、自分の体について知り、どのようにしたら健康を保持増進できるかを考える。そして、どのような運動をしたらより効果的かを考え、実践できるようにする。また、人生100年時代における健康寿命を延ばすために必要となる運動について知識、技術を身につける。							
到達（成績評価A）目標							
・運動を取り入れた健康づくりの基本を理解し、生涯体育を意識し日常生活で実践することができるようになる。【知識・技能】 ・エアロビクスの技能を学び、グループの皆と協働して豊かな表現力をもって独創性のあるダンスを表現する。【思考力・判断力・表現力】【主体性・多様性・協働性】							
単位取得（成績評価C）目標							
・運動を取り入れた健康づくりの基本を理解し、日常生活で実践することができるようになる。【知識・技能】 ・エアロビクスの技能を学び、グループで創作したダンスを表現する。【思考力・判断力・表現力】【主体性・多様性・協働性】							
教科書							
なし							
参考書・資料							
必要に応じてプリントを配布							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
特になし							
履修上の注意・備考・メッセージ							
・欠席、遅刻をしないように体調管理をきちんとすること。 ・髪は邪魔にならないようにまとめる。							
成績評価方法		成績評価基準					
プレゼンテーション試験(70%) 取り組み姿勢(30%) の総合評価		S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格					

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認をしてください。

科 目 名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
運動と健康	卒業必修	共通	1年 後学期	実技 講義	1	さとう ひさの 佐藤 久乃	単独
科目区分		履修条件					AL
共通科目		特になし					6, 7, 9, 12

授業のスケジュール

回	項 目	内 容	担当者
1	ガイダンス、ストレッチ	授業の進め方、内容説明、ストレッチ	
	事前学習 5分	シラバスを読んできろ。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
2	体づくり運動、エアロビクス(1)	ストレッチ、グループゲーム、基本ステップ	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
3	体づくり運動、エアロビクス(2)	ストレッチ、グループゲーム、ルーティーンの練習	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
4	体づくり運動、エアロビクス(3)	ストレッチ、グループゲーム、ルーティーンの練習	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
5	体づくり運動、エアロビクス(4)	ストレッチ、グループゲーム、ルーティーンの練習	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
6	体づくり運動、エアロビクス(5)	ストレッチ、グループゲーム、ルーティーンの練習	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
7	体づくり運動、エアロビクス(6)	ストレッチ、グループゲーム、ルーティーンの練習	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
8	体づくり運動、エアロビクス(7)	ストレッチ、筋力トレーニング、グループでのルーティーンの練習	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
9	体づくり運動、エアロビクス(8)	ストレッチ、筋力トレーニング、グループでのルーティーンの練習	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
10	体づくり運動、エアロビクス(9)	ストレッチ、グループでのルーティーンの練習	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
11	体づくり運動、エアロビクス(10)	ストレッチ、グループでのルーティーンの練習	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	

12	体づくり運動、エアロビクス(11)	ストレッチ、グループでのルーティーンの練習	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 20分	プレゼンテーション試験に向けて練習をしておく。	
13	体づくり運動、エアロビクス(12)、まとめ	プレゼンテーション試験	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 20分	プレゼンテーション試験に向けて練習をしておく。	
14	体づくり運動、エアロビクス(13)、まとめ	プレゼンテーション試験	
	事前学習 20分	プレゼンテーション試験に向けて練習をしておく。	
	事後学習 10分	試験の反省とストレッチ	

科 目 名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
標準英語スキルズ (英語コミュニケーションⅠ)	卒業必修	共通	1年 後学期	演習	1	わたなべ じゅん 渡辺 淳 りちやーど おすてん Richard S Austen	クラス 分け
科目区分		履修条件					AL
共通科目		特になし					6・7, 16
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
習熟度別の2クラス編成とし、リスニング・スピーキングと文法・リーディングの授業を交互に行う。リスニング・スピーキングの授業では、ネイティブスピーカーと話すことにより英語を楽しみ、異文化を知りつつ、「使える英語」を学ぶ。履修者の状況に対応した課題を設定する。							
到達（成績評価A）目標							
・英語基礎力の定着に加えて、英語を使うことに喜びと自信を持てるようになる。【DP1:知識・技術】 ・世界の国々における生活や社会のさまざまな話題となることについて、英語で読解するのに必要な総合的な能力を修得する。【DP1:知識・技術】 ・日常的な場面において必要となるリスニング・スピーキング力を修得し、実際に使うことができるようになる。【DP1:知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】							
単位取得（成績評価C）目標							
・英語基礎力の定着に加えて、英語を使うことに喜びと自信を持てるようになる。【DP1:知識・技術】 ・世界の国々における生活のさまざまな話題となることについて、英語で理解するのに必要な基礎的な能力を身につけることができる。【DP1:知識・技術】 ・日常的な場面において必要となる基礎的なリスニング・スピーキング力を修得し、一定程度は実際に使うことができるようになる。【DP1:知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力】							
教科書							
大坂 四郎：『First Steps to English Grammar』 南雲堂（2006）¥2,090 英語基礎演習と同じ 必要に応じてプリントを配付する							
参考書・資料							
なし							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
・毎回課題を与え、板書を利用しつつ、解説する。 ・読解課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
①毎回課題を出すので、まじめに取り組むこと。 ②積極的な授業参加を特に求める。							
成績評価方法			成績評価基準				
取組姿勢(20%) 小テスト(35%) 学修成果確認のための試験(45%) の総合評価			S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格				

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認してください。

科 目 名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
標準英語スキルズ (英語コミュニケーションⅠ)	卒業必修	共通	1年 後学期	演習	1	渡辺 淳 りちやーど おすてん Richard S Austen	クラス 分け
科目区分		履修条件					AL
共通科目		特になし					6・7, 16

授業のスケジュール

回	項 目	内 容	担当者
1	イントロダクション	授業についての説明	
	事前学習 5分	シラバスの該当ページを読む	
	事後学習 30分	課題の演習	
2	食べ物・飲み物	リスニング・スピーキング(1)	
	事前学習 30分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 30分	課題の演習	
3	天候	文法・リーディング・ライティング(1)	
	事前学習 30分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 30分	課題の演習	
4	趣味	リスニング・スピーキング(2)	
	事前学習 30分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 30分	課題の演習	
5	健康・病気	文法・リーディング・ライティング(2)	
	事前学習 30分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 30分	課題の演習	
6	音楽	リスニング・スピーキング(3)	
	事前学習 30分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 30分	課題の演習	
7	職業	文法・リーディング・ライティング(3)	
	事前学習 30分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 30分	課題の演習	
8	家族	リスニング・スピーキング(4)	
	事前学習 30分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 30分	課題の演習	
9	オリンピック	文法・リーディング・ライティング(4)	
	事前学習 30分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 30分	課題の演習	
10	動物とペット	リスニング・スピーキング(5)	
	事前学習 30分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 30分	課題の演習	

11	犯罪	文法・リーディング・ライティング(5)	
	事前学習 30分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 30分	課題の演習	
12	気持ち	リスニング・スピーキング(6)	
	事前学習 30分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 30分	課題の演習	
13	マス・メディア、天災・人災	文法・リーディング・ライティング(6)	
	事前学習 30分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 30分	課題の演習	
14	まとめ	全体の振り返りと学修成果確認のための試験	
	事前学習 30分	全体の学習内容を振り返り、足りなかったことを確認する。	
	事後学習 30分	今後の英語学習について考える	

科 目 名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
応用英語スキルズ (英語コミュニケーションⅡ)	選択	共通	2年 前学期	演習	1	わたなべ 渡辺 じゅん 淳	単独
科目区分		履修条件					AL
共通科目		特になし					16
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
eラーニング利用により受講者各々のレベルによって、A1、A2、B1の3つのコースに分割し、個人の意志と努力により、最高でTOEICの740点まで目指すことができる。課題は、写真描写問題・応答問題・会話問題・文法語彙問題・読解問題からなり、仕事・生活における表現の学習を深めていく。eラーニングという学習方法に慣れ親しむ。							
到達（成績評価A）目標							
・ TOEIC の比較的平易な問題を十分に解けることができるようになる。【DP1:知識・技能】 ・ 一つのレベルの全てのweb 課題に合格し、内容を修得できるようになる。【DP1:知識・技能】 ・ e ラーニングという学習方法を十分に修得する。【DP1:知識・技能】							
単位取得（成績評価C）目標							
・ TOEIC Bridge のレベルを修得する。【DP1:知識・技能】 ・ TOEIC の比較的平易な問題を解くことができるようになる。【DP1:知識・技能】 ・ e ラーニングという学習方法を十分に修得する。【DP1:知識・技能】							
教科書							
eラーニングで使用するWEB教材が事実上の教科書となる。eラーニングのためにニュートン社に対するソフトウェア使用料が必要となる（下記参照）。通常は一定期間内に履修者がコンビニより送金する形で支払う。							
参考書・資料							
プリントを必要に応じて配布する。							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
3,160円(eラーニング利用料)+300円(決済手数料)							
課題に対するフィードバック							
Web課題の達成状況についてweb上でコメントを返す。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
・ 私語厳禁。 ・ 辞典の持参が必要。 ・ eラーニングによる積極的な予習復習(毎日約10分) が必要となる。							
成績評価方法			成績評価基準				
課題web提出(30%) 小テスト (30%) 学修成果確認のための試験 (40%) の総合評価。取組姿勢によっては5%の範囲で減点あり。			S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格				

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認してください。

科 目 名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
応用英語スキルズ (英語コミュニケーションⅡ)	選択	共通	2年 前学期	演習	1	わたなべ じゅん 渡辺 淳	単独
科目区分		履修条件					AL
共通科目		特になし					16

授業のスケジュール

回	項 目	内 容	担当者
1	イントロダクション	eラーニング及び機器使用の仕方等についての説明	
	事前学習 5分	シラバスの該当ページを読む	
	事後学習 30分	テキストの指定されたページを読む	
2	レベル決定	レベルチェックテスト	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	テキストの指定されたページを読む	
3	写真描写描写問題(1)	Step 1-5	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題の演習	
4	写真描写描写問題(2)	Step 6-10	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題の演習	
5	応答問題(1)	Step 1-5	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題の演習	
6	応答問題(2)	Step 6-10	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題の演習	
7	文法・語彙問題(1)	Step 1-4	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題の演習	
8	文法・語彙問題(2)	Step 5-7	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題の演習	
9	文法・語彙問題(3)	Step 8-10	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題の演習	
10	会話問題(1)	Step 1-4	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題の演習	

11	会話問題(2)	Step 5-7	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題の演習	
12	会話問題(3)	Step 8-10	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題の演習	
13	読解問題	Step 1-4	
	事前学習 30分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 30分	課題の演習	
14	まとめ	全体の振り返りと学修成果確認のための試験	
	事前学習 30分	全体の学習内容を振り返り、足りなかったことを確認する。	
	事後学習 15分	今後の英語学習について考える	

科 目 名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
英会話	選択	共通	1,2年 前学期	演習	1	リチャード・オステン Richard S Austen	単独
科目区分		履修条件					AL
共通科目		特になし					8, 9, 16
実務経験のある教員による科目							
なし							
授業の概要							
現在の日本社会で、英語のニーズが増えつつある。この授業の目標は、様々な場面において、履修者が自信をもって、怖がらずに、英語でコミュニケーションを取れるようになることである。授業ごとに英語を実際に話せるための、役に立つテーマについて学ぶ。授業内容は、スピーキングとコミュニケーション(40%)、リスニング(20%)とリーディング(20%)で身につける。							
到達（成績評価A）目標							
・最初の授業より会話で実際に使える語彙とフレーズを増やす（口頭テスト）。【DP1:知識・技能】 ・授業のテーマごとに、ある程度自信をもって、コミュニケーションを取れるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力】 【DP3:主体性・多様性・協働性】 ・いろいろなトピックにおいて自分の好みと意見を述べるができる。【DP2:思考力・判断力・表現力】 【DP3:主体性・多様性・協働性】							
到達（成績評価C）目標							
・最初の授業より理解できる語彙とフレーズを増やすことができる（筆記テスト）。【DP1:知識・技能】 ・毎回の宿題に積極的に取り組み授業では会話を楽しむことができる。【DP2:思考力・判断力・表現力】 【DP3:主体性・多様性・協働性】 ・自己紹介ができる。【DP1:知識・技能】 【DP2:思考力・判断力・表現力】							
教科書							
なし							
参考書・資料							
必要に応じてプリントを配布							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
なし							
課題に対するフィードバック							
課題をチェックし、コメントや修正を付け、返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
・遅刻・欠席はしないように体調管理をきちんとすること。 ・欠席の場合は、登校した日に必ず、研究室に連絡を取ること。 ・意欲的に授業に取り組むこと ― 英語で話すことをチャレンジする気持ちで授業に参加すること。							
成績評価方法			成績評価基準				
口頭・筆記による学修成果確認のための試験（80%）、授業態度(20%)の総合評価。			S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格				

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム (<https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/>) に掲載されています。必ず確認してください。

科 目 名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
英会話	選択	共通	1,2年 前学期	演習	1	リチャード・オステン Richard S Austen	単独
科目区分		履修条件					AL
共通科目		特になし					8, 9, 16

授業のスケジュール

回	項 目	内 容	担当者
1	Introduction Class	自己紹介を行う ・ 授業の流れに慣れる	
	事前学習 5分	シラバスを読んてくる	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
2	Food and Drink	飲食についての話し方を学ぶ（好みや味など）	
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
3	Hobbies and Interests	趣味について詳しく話す	
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
4	Countries and Culture	行きたい国や旅行先でしたいことについて話す・異文化について学ぶ	
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
5	Family and Friends	自分の家族や友達について詳しく話す	
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
6	Appearance and Clothing	ファッション・服・外見・芸能人について話す	
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
7	Japanese Food and Cooking	日本の料理の説明やお勧めの言い方について学ぶ	
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
8	Travel	旅行先での役に立つフレーズや質問を学ぶ	
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
9	Weather	天気や日本の四季について話す	
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
10	Jobs	職場で使える英語の単語やフレーズを学び・様々な仕事について話す	
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	

11	Making Foreign Friends	外国人とコミュニケーションを取ることにについて学ぶ	
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
12	Review and Practice(1)	総合問題(1)以前の授業で学んだことを復習し練習する。 ロールプレーなどを通して、スピーキングに集中(1)	
	事前学習 10分	前回のワークシートを復習する	
	事後学習 20分	復習：スピーキングテストに向けて授業で学んだフレーズや語彙などを覚えること	
13	Review and Practice(2)	総合問題(2)以前の授業で学んだことを復習し練習する。 ロールプレーなどを通して、スピーキングに集中(2)	
	事前学習 10分	前回のワークシートを復習する	
	事後学習 20分	復習：スピーキングテストに向けて授業で学んだフレーズや語彙などを覚えること 定期試験のための復讐をしておく	
14	まとめとスピーキングテスト	スピーキングテストを行う。学修成果確認のための試験	
	事前学習 10分	前回のワークシートを復習する	
	事後学習 20分	復習：この授業で学んだフレーズや語彙を生活の中で試してみる	